

# 会 務 報 告

(平成 21 年 8 月～平成 22 年 7 月)

◇**診断病理サマーフェスト**: サマーフェスト委員会のもとで、平成 21 年 8 月 29 日 (土) 30 日 (日)、東京大学医学部鉄門記念講堂にて「第 3 回診断病理サマーフェスト」が開催された。213 名が参加し、うち 68% が病理、22% が放射線科、10% が整形外科等からの参加であった。

◇**技術講習会—分子病理学の基礎技術 9—**: 青笹克之教授・森井英一准教授 (大阪大学)、横崎宏教授 (神戸大学) のもとで、平成 21 年 11 月 18 日 (水)、ホテルグランドヒル市ヶ谷にて実施され、31 名が受講した。講師は、モデレーターとして森井准教授・横崎教授があたったほか、講義は藤井博昭 (上尾中央臨床検査研究所)、國安弘基 (奈良県立医科大学)、大保木啓介 (国立成育医療センター)、の各氏が担当した。

◇**第 55 回秋期特別総会 (平成 21 年度)**: 防衛医科大学校を世話機関として松原修会長のもとで、平成 21 年 11 月 19 日 (木)～20 日 (金) の 2 日間、九段会館にて開催された。特別講演 2 題、要望講演 1 題、学術研究賞演説 (A 演説) 7 題、B 演説 2 題、シンポジウム 2 件 9 題、病理診断シリーズ 2 題、International Poster Session の発表と討論が行われた。会期の前後には病理技術講習会、IAP 病理学教育シンポジウム・スライドセミナーなどが開かれた。

## 特別講演 (2 題)

緒方 克彦 (防衛医科大学校): 我国の災害医療と国際医療の貢献

E.J. Mark, MD (Harvard Medical School and Mass. General Hospital): Diagnosis of Medical Lung Disease Using a Low Power Approach

## 学術研究賞演説 (A 演説) (7 題)

- (1) 坂下 直実 (熊本大学大学院医学薬学研究部細胞病理学分野): コレステロールによるマクロファージの機能制御—ACAT1 陽性特異オルガネラの発見から細胞内コレステロール代謝制御、ファゴゾーム機能障害、C 型ニーマンピック病治療戦略まで
- (2) 石津 明洋 (北海道大学大学院保健科学研究院病態解析学分野): モデル動物の解析による自己免疫疾患発症機序の多面的理解
- (3) 保坂 直樹 (関西医科大学第一病理学教室): 胸腺移植併用による次世代の骨髄移植法の開発—T 細胞の分化増殖・制御に向けて—
- (4) 大上 直秀 (広島大学大学院医歯薬学総合研究科分子病理学研究室): SAGE 法で同定した Reg IV の各種がんにおける分子病理学的意義
- (5) 増本 純也 (信州大学医学部病理組織学講座): インフラマソームの機能から考える炎症疾患発症の分子基盤

(6) 佐々木素子 (金沢大学医薬保健研究域医学系形態機能病理学): 細胞老化に着目した肝胆道系疾患の発生・進展機構の解明

(7) 山田 健人 (慶應義塾大学医学部病理学教室): 疾患モデルの確立によるヒトがんの生体内での分子病理学的研究

## B 演説 (2 題)

(1) 川崎 朋範 (山梨大学医学部人体病理学講座) 乳腺の神経内分泌型非浸潤性乳管癌

(2) 竹内 賢吾 (財団法人癌研究会癌研究所病理部): Lymphomatoid Gastropathy—本邦発の新しい NK 細胞増殖症

## シンポジウム (2 件 9 題)

1. 予後、原因、および特定の遺伝子変化と関連した、癌の特徴的組織像

(1) 谷田部 恭 (愛知県がんセンター): 遺伝子変異と関連した肺腺癌の前癌病変、異型腺腫様過形成の生物学的相違

(2) 竹内 賢吾 (癌研究所): ALK 融合遺伝子陽性腫瘍の病理学的スペクトラム

(3) 岩屋 啓一 (防衛医科大学校): Her2/neu 遺伝子増幅を認める乳癌の形態的特徴

(4) 菅井 有他 (岩手医科大学): 胃分化型早期癌の粘液形質に基づいた分子異常と形態との関連性

(5) 新井富生他 (東京都健康長寿医療センター): マイクロサテライト不安定性を示す大腸癌の臨床病理学的特徴

2. 社会における病理医—病理診断の標準化、精度向上にむけて—

(1) 水口 國雄 (帝京大学): 病理部門における外部精度管理

(2) 白石 泰三 (三重大学): 病理診断の標準化を目指して—前立腺病理の場合—

(3) 梅村しのぶ (東海大学): 乳癌治療効果予測因子検索の精度管理—到達点と今後の課題

(4) 長谷部孝裕他 (国立がんセンター): 病理診断コンサルテーション支援と病理画像レファレンシャルデータベース (RDB) 構築—国立がんセンター病理関連部門の取り組み—

## 要望講演 (1 題)

Catherine M Ketcham, PhD (Managing Editor, Laboratory Investigation): Secrets From a Journal Editorial Office

## 病理診断シリーズ (2 題)

シリーズ 37 諸星 利男 (昭和大学医学部第一病理学教

室)：腺嚢胞性病変の病理

シリーズ 38 廣川 満良 (隈病院病理細胞診断部)：甲状腺嚢胞性腫瘍の診断と限界

○今後予定されている総会は、以下のとおりである。

- 1) 第 99 回 (平成 22 年度) 総会  
世話機関：順天堂大学  
会 長：樋野興夫教授  
会 期：平成 22 年 4 月 27 日 (火)～29 日 (木)  
会 場：京王プラザホテル
- 2) 第 56 回 (平成 22 年度) 秋期特別総会  
世話機関：産業医科大学  
会 長：橋本 洋教授  
会 期：平成 22 年 11 月 25 日 (木)～26 日 (金)  
会 場：西日本総合展示場他
- 3) 第 100 回 (平成 23 年度) 総会  
世話機関：東京大学  
会 長：深山正久教授  
会 期：平成 23 年 4 月 28 日 (木)～30 日 (土)  
会 場：パシフィコ横浜

◇上記特別総会に関連して開催された理事会および総会について：平成 21 年 11 月 18 日 (第 55 回秋期特別総会の前日) にホテルグランドヒル市ヶ谷にて理事会を、11 月 19 日には九段会館にて総会を開催した。これらの理事会、総会では、理事長報告、各種委員会委員長報告を行った。

協議事項としては、総会では、平成 22 年度/23 年度役員選任、平成 22 年度事業計画並びに収支予算、日本病理学会 100 周年記念事業、第 57 回 (平成 23 年度) 秋期特別総会会長および第 101 回 (平成 24 年度) 総会会長について協議し、それぞれ原案のとおり決定した。

理事会では、100 周年記念事業経費、Pathology International 次期編集長、英国病理学会との交流事業、病理専門医受験資格細則文言、第 100 回 (平成 23 年度) 総会宿題報告担当者、22 年度秋期学術集会病理診断シリーズの講演者、平成 22 年度名誉会員有資格者、平成 21 年度上期新入会員、をそれぞれ協議して決定した。

◇理事会：平成 21 年 11 月 18 日 (水) の理事会には長村義之、真鍋俊明、岡田保典、深山正久、黒田 誠、山口 朗、青笹克之、井内康輝、覚道健一、松原 修、本山梯一、向井 清、根本則道、坂本穆彦、佐藤昇志、白石泰三、居石克夫、寺田信行、上田真喜子 (以上理事)、石原得博、太田秀一 (以上監事)、大藪いづみ、菊川敦子 (以上事務局) の各氏が出席し、長村理事長長の司会により議事を進行した。議事録に署名する出席者代表に向井 清、寺田信行両理事が指名された。

#### ○報告事項

##### 1. 理事長報告

- (1) 平成 22 年度診療報酬改定に関する厚生労働大臣宛要望書を 6 月 4 日に提出した。  
要望の第 1 位は、「病院のみならず診療所も含めたすべ

ての保険医療機関において病理診断料の算定を可能とする」である。その他、「術中迅速病理組織標本作製の出来高算定」「細胞診断料の新設」である。

- (2) 診療報酬改定に関する厚労省ヒアリングが 8 月末に行われた。また、中医協「医療技術評価分科会」委員に本学会の稲山社会保険委員長が選任された。
- (3) Pathology International のオンラインオンリー化に伴い、毎月発行の会報は、病理学会ホームページに掲載するとともに、支部のメーリングリストを活用することとした。
- (4) Pathology International の来年 1 月からオンラインオンリーになることから、その詳細と冊子体の購読申し込みについて、会報 10 月号に掲載した。
- (5) 人材育成委員会のアンケート結果と提言について報告を受けた。「コメントと提言」については会報 10 月号に掲載し、アンケート結果の概要 (パワーポイント) についてはホームページのみに掲載した。会報には「ホームページを参照」と添え書きをした。
- (6) 7 月 19 日に「医学生のためのレジナビ」に参加した。ブースを訪れた医学生は、昨年と同様に、約 70 名であった。今後はブースを訪れた医学生のその後についてアンケート調査をすることを検討している (若手医師確保に関する委員会大橋委員長)。
- (7) 公益認定法人化については、これまでの WG での検討結果の中間報告を病理学会ホームページの会員サイトに掲載し会員の意見を募ることとしている。公益法人化に向けて、「法人法上」に必要な「理事・監事・理事長」の解職権限に関する記載が現行の定款では欠落しているため、これを加える旨を、今回の総会でアナウンスすることとした。
- (8) 泌尿器科関連 (腎癌 腎盂尿管癌 膀胱癌 前立腺癌) の痛取扱い規約の改訂について、病理学会痛取扱い規約委員会坂本穆彦委員長の推薦により、病理側委員を選任した。
- (9) 長村理事長と深山副理事長が、死体解剖資格認定要領の一部改正について厚労省へ要望書を提出した。要望の内容は、「病理解剖を医師・歯科医師によって行われるべきである。」というものである。厚労省からは、「改正は法律の改定となるため困難であるが「分科会の審議内容を公表する」などで病理学会の希望に添いたい」との回答があった。
- (10) 財団法人パブリックヘルスリサーチセンターより、KRAS 遺伝子変異解析における病理専門医の関与の重要性に鑑みて、専門家の推薦依頼があった。医療業務委員長の根本則道理事と、国立がんセンターの津田均学術評議員を推薦することとした。また、これらの協力要請について、総会にて会員に周知することとした。
- (11) 内科学会では、教育病院での必要剖検体数を 20 体→16 体→10 体と緩和してきたが、剖検の 1 例 1 例の取り組

みを重視する意味で、CPCの実施を3症例から5症例に増やした。このことは、病理医に負担になることも懸念されるが、剖検とCPCを重要視するために、是非とも理解と協力をお願いしたいとの申し入れがあった。会員に周知することとした。

- (12) HER2の精度管理事業について、根本医療業務委員長と日本乳癌学会に所属する病理学会員とで意見の交換を行った。今後、病理学会精度管理委員会と日本乳癌学会所属の病理学会員とでワーキンググループを新たに立ち上げる方向性を目指すとの報告があった。

## 2. 各種委員会委員長報告

### (1) 企画委員会（深山正久委員長）

#### ① 公益法人化について

- ・平成25年11月までに、一般社団法人か公益社団法人かどちらかにしなければならず、公益社団法人を目指して準備をしている。
- ・病理学会の事業を公益事業と収益事業に分け、それに合わせて会計処理をし、定款の見直しをしていかなければならない。会計については、新公益会計基準に則る必要があるため、平成21年度からこの基準で処理をする。
- ・定款の見直し（特に選挙制度）では、WG（向井清座長）で検討をした。基本的には、現在の選挙制度は踏襲するが、理事長の選任・解職規定が現在の定款にないので、これを盛り込むことを視野に入れた議論が必要であるとのことである。
- ・上記のことを踏まえた中間報告を病理学会会員専用ページに掲載し、会員の意見を募ることとした。回答用紙をダウンロードし、FAXにて回答してもらうこととする（第1回締め切り 平成22年1月末）。
- ・最短では、平成22年度末の申請を目指すこともできるが、今後の予定は、次期の常任理事会および理事会にて検討してもらうこととする。

#### ② 100周年記念事業について

- ・100周年記念誌については、現在執筆依頼を発送したところであり、一般会員からの投稿も公募する予定である（経費予算600万円）。
- ・100周年記念式典事業については、第100回日本病理学会総会時に記念講演、記念式典、パーティーを行う（経費予算1,000万円）。
- ・企画記念事業としては病理情報管理ネットワークセンター（仮称）の設置（経費予算3,400万円）を企画しており、協力企業のヒアリングを行い、2社に絞ってソフトウェアの開発費用の見積もりを依頼している。これに関連しては、ネットワークが会員に資するものであるかどうか、5年を目途に見直しをはかるためにも、システムを運営する委員会を立ち上げるべきとの意見があった。2月の理事会には、この運営委員会（仮

称）の具体的な案が提示されることとなった。

- ・以上の経費予算総額5,000万円を、2,000万円を「病理学学術医療振興基金」から拠出し、2,500万円を会員からの寄付（一口5,000円）、500万円を一般からの寄付で賄うこととする。この2,000万円の拠出については、理事会にて承認されたので総会に報告することとした。

### (2) 広報委員会（坂本穆彦委員長）

#### ① Pathology International 冊子体配付終了後の「会報」の扱いについて検討し、次の通りとした。

- ・現状通り月例の「会報」を作成し、学会HPに掲載する（紙媒体は廃止）。
- ・1年分の会報の内容のサマリーは、現行通り「会務報告」として「日本病理学会誌」第2巻に掲載する。
- ・将来のオンライン全面配信までの移行処置として、年に4回、会報の中から「お知らせ」の部分を郵送する。

### (3) 学術委員会（岡田保典委員長）

- ・Pathology International のオンラインオンリー化に伴っての契約書については、ワイリー社からの提案を待って検討することとする。その際、カラーチャージの著者負担について確認する必要がある。
- ・学術集会の改革案については5年を目途に評価することにしており、次期の学術委員会でアンケート調査をするなど継続的に検討する必要がある。

### (4) 編集委員会（向井 清委員長）

#### ① Pathology International について

- ・投稿数は昨年より30編以上増えて350編程度になる予想である。投稿数の増加にともない編集委員の増員や編集方針の変更が必要になる可能性がある。
- ・Impact factorは1.3台を保持している。1.5を目指したい。

#### ② 診断病理

- ・投稿はこれまでどおり九州・沖縄支部が一番多いが、他支部からの投稿も増えている。
- ・総説も各号1編載るようになっていく。
- ・秋の学会の診断シリーズの内容も掲載していただくように依頼してはどうかという提案があった。

#### ③ 剖検輯報

- ・第50輯は4月に刊行し、現在第51輯のデータベースの作成を開始したところである。

### (5) 研究推進委員会（青笹克之委員長）

- #### ① 第6回病理学会カンファレンスを2009年7月31日～8月1日に筑波大学加藤光保教授を世話人につくば国際会議場にて開催した。テーマ「病理組織学の新展開」であり、99名が参加し存在意義が大いにあった。

- #### ② 第7回病理学会カンファレンスを2010年8月6日～7日（金、土）に岡山大学松川昭博教授を世話人に岡山コンベンションセンターにて開催する。テーマは「炎



症と免疫、癌」である。ポスター発表の表彰を予定している。

- ③ 病理技術講習会については、今回の参加は30数名であった。参加が減少しているため、2010年秋は中止にし、今後については、来年3月までに結論を出す。たとえば、分子病理診断に特化した内容とすることや、開催の時期などを検討する。
- (6) 病理専門医制度運営委員会（黒田 誠委員長）
- ① 資格審査委員会報告  
病理専門医更新は339名の申請があり、6名が更新不可であった。多くはクレジットがないことによるので、学会参加証の重要性を啓発する。
- ② 施設審査委員会報告  
新規認定施設 11件申請すべて可（1件は登録施設と併願）。  
新規登録施設 20件申請 1件は認定施設となったので19件すべて可。
- ③ 来年度（平成22年度）の専門医試験について  
平成22年7月24日（土）・25日（日）京都府立医科大学で実施され、それにとまなう細胞診講習会は3月13日（土）14日（日）神戸大学で実施される。
- ④ 平成23年度・24年度の試験は、東京医科大学を会場に実施される。
- ⑤ 受験資格等の細則の文言整理について（協議事項）  
剖検例が50例以上から40例以上に変更になった。剖検講習会の受講が必須となった。
- ⑥ 来年度「剖検講習会」について  
春の病理学会開催期間中に、病理診断講習会の中で実施する。
- (7) 医療業務委員会（根本則道委員長）
- ① コンサルテーション委員会報告（委員長 森永正二郎）  
・コンサルテーションに関するガイドラインの改定を行った。コンサルテーションの依頼方法として電子メールによる方法を採択した結果、約2/3がメールを選択した。  
・コンサルテーション実績は（10/31現在）昨年とほぼ同様（460～70）のペースである。
- ② 社会保険委員会報告（委員長 稲山嘉明）  
・内保ルートへの要望として、第1位は病理診断料（診療所での算定可、1回/月算定制限の解除、細胞診断との併算定可）である。  
・DPC評価分科会へ、術中迅速病理組織標本作製の出来高算定を要望した。  
・病理学会からの要望については医療技術評価分科会での一次評価が終了し、その結果が二次評価で審議される。
- ③ 剖検・病理技術委員会報告（委員長 谷山清己）  
・ホルマリン対策についてのアンケート調査結果の報告

があった。病理部門でホルマリン対策を行っている施設は96%で、特定化学物質作業主任者を選任している施設は58%である。

- ・今後、本委員会でもまとめられた結果を学会HPに掲載し、Q&Aも含めてダウンロードできるようにする予定である。また、その結果を厚労省でも利用させて欲しいとの非公式な申し入れがあった。
  - ・IHE-J（Integrating the Healthcare Enterprise-Japan）の活動状況が報告された。
- ④ 精度管理委員会報告（委員長 羽場礼次）  
・HER2精度管理について、乳癌学会の委員との共同作業を行うことで同意した。具体的には医療業務委員会の精度管理委員会の中にWGを設置する方向である。
- ⑤ 癌取扱い規約委員会報告（委員長 坂本穆彦）  
・泌尿器系（腎、腎盂・尿管、膀胱、前立腺）の改定作業が始まった。  
・子宮頸部癌についても、12月の産科婦人科学会理事会后に改定の動きがある。
- ⑥ 病理診断体制専門委員会報告（委員長 水口國雄）  
・委員会で取り扱う内容は標榜診療科が実現した以降、診療報酬関連が大きな割合を占める。従って、今後の委員会活動は社会保険委員会との合体を含め発展的解消も視野に入れた対応をしたいので、病理診断体制専門委員会で検討する。
- (8) 口腔病理専門医制度運営委員会（山口 朗委員長）
- ① 23名より口腔病理専門医資格更新申請があり、審査の結果、全員の更新が認められた。
- ② 口腔病理専門医制度の基盤整備について検討した。
- (9) 教育委員会（覚道健一委員長）
- ① 教育委員会にて2008年4月より2回にわたり委員会を開催し、病理コア画像改訂作業を完成させた。
- ② 改訂版の特色は次の通りである。  
・コア100選を選定し、病理画像の重要な疾患100を明示した。  
・画像の説明に加え、アニメーションを用い画像上に特色を明示した。  
・総論的疾患についても、各論を参照する形で総論的疾患を網羅することを計画している。
- (10) 国際交流委員会（松原 修委員長）
- ① 英国病理学会交流事業について  
・2009年には第98回病理学会（京都）の際、英国側からシニア1名とジュニア2名が参加し、教育講演とシンポジウムでの講演、ポスター発表を行った。2010年の英国病理学会へはシンポジスト1名とポスター発表者2名を派遣するため公募を行った。シンポジストには2名の応募があったが、ポスター発表への応募はなかったため、再公募する。  
・Japan-European Collaborative Award in Pathology について

でも公募中である（12月25日まで）

- ② 日独病理学会交流事業について  
2010年には日本からドイツ病理学会へ、シニア会員とジュニア会員を派遣し、2011年にはドイツから日本病理学会に参加することになっている。
- ③ アジアとの交流事業について  
第55回秋期特別総会へ、韓国、台湾、フィリピン、マレーシア、ベトナムから計6名をInternational Poster SessionのPoster Presenterとして招待した。1名あたり10万円（日本病理学会からは計50万円）をAwardとして支出する。

(11) 支部委員会（居石克夫委員長）

- ① モデル事業の現状、今後について意見交換を行った。極めて流動的な現状にあって、迅速かつ正確な情報を出来るだけ多く各支部へ報告していただきたい旨の希望が出された。
- ② PIN オンラインオンリー化に伴う学会広報（会報ならびにお知らせ等）に支部メールアドレスを活用する件について、各支部が協力して推進することを了承した。ただし、インターネット利用を希望しない会員への広報については、今後も支部内で十分に検討することの大切さを改めて確認した。特に支部からの連絡にレスポンスのない会員に対しては、年4回の紙媒体での「お知らせ」が郵送されている期間内に情報の伝達方法について十分検討しなければならない。

(12) 人材育成委員会（上田真喜子委員長）

- ① 平成20年度に実施したアンケート結果の集計を行い、そのデータをもとにワーキンググループで解析を実施し、「コメントと提言」を作成して理事長に報告した。
- ② 常任理事会での検討の結果「コメントと提言」については会報10月号、アンケート結果の概要（パワーポイント）は、ホームページに掲載された。
- ③ 今後は、「提言」を具体的に実行していくために、その方策を委員会で討議したい。「提言」の中にある女性病理医支援の窓口を各支部に設置することについては、今後の委員会を経て、支部委員会に相談したい。

○協議事項は、以下のとおり、承認、決定した。

1. 平成22年度/23年度役員選出の件  
選挙の結果、理事19名および監事2名が選出されているので、これを総会に提案することとした。
2. 平成22年度事業計画並びに収支予算に関する件  
真鍋俊明財務委員長より、事業計画並びに収支予算について説明があった。収入案は、211,110千円、支出案は、202,630千円である。協議の結果、事業計画案のなかで技術講習会の開催は削除することとした。収支予算については、Pathology Internationalのオンラインオンリー化に伴っ

ての会費の値下げ幅等につき協議した。会費の値下げは平成23年度からであるので、平成21年度決算や平成22年度予算執行を勘案してさらに協議することとした。平成22年度予算案については原案のとおり承認した。

3. 100周年記念事業に関する件  
企画委員会の報告における100周年記念事業の実施を保証する意味で、病理学学術医療振興基金より2,000万円を拠出することが承認された。
4. 第57回（平成23年度）秋期特別総会会長選出の件  
長村理事長より、第57回（平成23年度）秋期特別総会会長に応募のあった諸星利男教授（昭和大学）がプログラム推進委員会の議を経て推薦された。協議の結果、原案どおり承認し総会へ提案することとした。
5. 第101回（平成24年度）総会会長の選出の件  
長村理事長より、第101回（平成24年度）総会会長に応募のあった岡田保典教授（慶應義塾大学）が、プログラム推進委員会の議を経て推薦された。協議の結果原案どおり承認し総会へ提案することとした。
6. 第100回（平成23年度）総会宿題報告担当者等の選出の件  
岡田保典学術委員長より、以下のとおり推薦された。宿題報告担当候補者には、宮園浩平（東京大学）岡安 勲（北里大学）の2名であり、協議の結果、いずれも原案の通り決定した。また、病理診断シリーズの講演者には、長谷川匡（札幌医科大学）、井藤久雄（鳥取大学）の2名であることが報告された。
7. Pathology Internationalの次期編集長の件  
長村理事長より、応募のあった高橋雅英現編集長が推薦された。協議の結果、これを承認した。
8. Pathology Internationalのオンラインオンリー化に関する件  
岡田保典学術委員長より、Pathology Internationalのオンラインオンリー化については、今後、ワイリー社と契約の締結を行っていくことと、それに伴う会費の値下げ幅については、来春の理事会に提案することが報告され、これを了承した。
9. 英国病理学会との交流事業の件  
来年の英国病理学会へのシンポジスト派遣については、2名の応募があったが、松原 修国際交流委員長より、石川雄一癌研病理部長が推薦された。協議の結果、原案の通り決定した。
10. 病理専門医制度細則の件  
今春の理事会にて承認された、病理専門医の受験資格における剖検例数について、細則の文言整理を行った。枝番号の不備を修正した後、原案の通り決定した。
11. 名誉会員の有資格者に関する件  
平成22年度新名誉会員の有資格者名簿（182名）を承認し、確認、推戴作業に入ることにした。
12. 新入会員の承認の件

長村理事長より、平成21年度新入会員上期（平成21年4月1日～10月31日）142名が諮られた。協議の結果、原案のとおり決定した。

◇**会員総会**：平成21年11月19日（木）に九段会館大ホールにて、正会員3,653名のうち1,911名（うち委任状出席者1,676名）の出席を得て開催された。

議長に松原 修第55回秋期特別総会会長を選び議事を進行した。議事録署名人に出席者代表として、中谷行雄（千葉大学）、加藤良平（山梨大学）の両会員が指名された。

## ○報告事項

### 1. 常任理事会報告

#### (1) 長村義之理事長

- ① 平成21年10月31日現在の病理学会会員数は、学術評議員1,527名、一般会員2,132名、名誉会員303名の3,962名である。賛助会員3名、機関会員91名である。このうち、病理専門医は2,053名、口腔病理専門医は105名である。
- ② 平成22年度診療報酬改定に関しての厚生労働大臣宛要望書を提出した。要望の第1位は「病院のみならず診療所も含めたすべての保険医療機関において病理診断料を算定可能とする」である。その他「術中迅速病理組織標本作製の包括払い制度からの除外」「細胞診断料の新設」を要望している。
- ③ 泌尿器科関連（腎癌 腎盂・尿管癌 膀胱癌 前立腺癌）の癌取扱い規約の改訂について、病理学会癌取扱い規約委員会坂本穆彦委員長の申し出により、病理側委員を選任した。
- ④ 利益相反について、井藤倫理委員長より素案が提示された。
- ⑤ 内科学会では、教育病院でCPCの実施を3症例から5症例に増やした。日本内科学会理事長より“このことは病理医に負担になることも懸念されるが、剖検とCPCを重要視するために、是非とも理解と協力をお願いしたい”との申し入れがあった。
- ⑥ HER2の精度管理事業について、根本医療業務委員長と日本乳癌学会に所属する病理学会員とで意見の交換を行った。今後、病理学会精度管理委員会と日本乳癌学会所属の病理学会員とでワーキンググループを新たに立ち上げる方向性を指すとの報告があった。
- ⑦ 財団法人パブリックヘルスリサーチセンターより、KRAS遺伝子変異解析研究について日本病理学会へ委員会出席など協力要請があった。

#### (2) 深山正久副理事長（企画委員会）

- ① 100周年記念事業について
  - ・企画記念事業としては病理情報管理ネットワークセンター（仮称）の設置（費用3,400万円）を企画しており、

協力企業の選定中である。協力が得られれば、費用3,400万円の下方修正も可能である。

- ・100周年記念誌については、執筆の依頼が始まったところである。（費用600万円）。
  - ・100周年記念式典事業については、第100回日本病理学会総会時に記念講演、記念式典、パーティーを行う（費用1,000万円）。
  - ・以上の費用総額5,000万円の事業を保証する意味で、2,000万円を「病理学学術医療振興基金」から拠出したい（残りは寄付金）。この拠出については、協議事項ではあったが、この場で協議され承認された。事業終了後余剰金があれば、基金に返納する。
- ② 公益法人化について
    - ・平成25年11月までに、一般社団法人か公益社団法人かどちらかにしなければならず、公益社団法人を目指して準備をしている。
    - ・事業の仕分けについてはWG（4名）で検討しており、中間報告を病理学会ホームページに掲載し、会員の方の意見を伺うことにしている。
    - ・定款の見直しとしては、現行の定款には「理事長の解職規定がない」ので、これを盛り込むことが報告され、了承された。
    - ・最短では、平成22年度末の申請を目指すこともできるが、今後の予定は、次期の常任理事会および理事会にて検討してもらうこととした。
  - (3) 岡田保典副理事長・常任理事（学術委員会）
    - ① 第100回（平成23年度）総会の宿題報告の選考を行い、宮園浩平（東京大学）、岡安 勲（北里大学）の両学術評議員に決定した。
    - ② 平成22年度秋期学術集会の病理診断シリーズとして「移植の病理（仮題）：井藤久雄（鳥取大学）」と「軟部腫瘍の病理（仮題）：長谷川匡（札幌医科大学）」に決定した。
    - ③ Pathology International のオンラインオンリー化にともない、インパクトファクターを上げるためにも、Review, Original の投稿をお願いしたい。また、会費の値下げについては、平成23年度から予定されている値下げ幅等については、来春の総会で提案することになっている。
  - (4) 黒田 誠常任理事
    - ① 病理専門医制度運営委員会（黒田 誠委員長）
      - ・病理専門医の更新審査については339名の申請があり、6名が更新不可であった。学会参加証の保管に留意してほしい。
      - ・新規の研修施設審査については、認定施設申請11件、登録施設申請19件すべてが認可された。
      - ・来年度の専門医試験は、7月24日（土）・25日（日）京都府立医科大学で実施され、それにとまなう細胞診



講習会は3月13日(土)14日(日)神戸大学で実施される。

- ・平成23年度・24年度の試験会場は東京医科大学の予定である。
- ・受験資格の剖検例が50例以上から40例以上に変更になったことにともない、剖検講習会の受講が必須となった(来年度は50例以上でも可)。来年度の剖検講習会は病理学会開催期間中に病理診断講習会の中で実施する。

② 口腔病理専門医制度運営委員会(山口 朗委員長)

- ・23名より口腔病理専門医資格更新申請があり、審査の結果、全員の更新が認められた。
- ・口腔病理専門医制度の基盤整備について検討している。

③ 医療業務委員会(根本則道委員長)

- ・コンサルテーション委員会  
コンサルテーションに関するガイドラインの改定を行った。電子メールによる方法を提供した結果、約2/3がメールを選択した。日本病理学会では、コンサルタント業務は完全ボランティアで行っているとの見解である。コンサルタント間の標本見直しに関する精度管理の経費(郵送料など)に関しては、郵便切手での支給は可能である。多臓器横断的(血管炎・膠原病関連疾患)なコンサルタントを増員した。
- ・社会保険委員会活動  
内保連ルートへの要望として、第1位は病理診断料(診療所での算定可、1回/月算定制限の解除、細胞診断との併算定可)である。DPC評価分科会へ、術中迅速病理組織標本作製の出来高算定を要望した。病理学会からの要望については医療技術評価分科会での一次評価が終了し、その結果が二次評価で審議される。
- ・剖検・病理技術委員会報告  
ホルマリン対策についてのアンケート調査結果の報告があった。病理部門でホルマリン対策を行っている施設は96%で、特定化学物質作業主任者を選任している施設は58%である。今後、本委員会でもまとめられた結果を学会HPに掲載し、Q&Aも含めてダウンロードできるようにする予定である。
- ・精度管理委員会報告  
HER2精度管理について、乳癌学会の委員との共同作業を行うことで同意した。具体的には医療業務委員会の精度管理委員会の中にWGを設置する方向である。
- ・癌取扱い規約委員会報告  
泌尿器系(腎、腎盂・尿管、膀胱、前立腺)の改定作業が始まった。子宮頸部癌についても、12月の産科婦人科学会理事会後に改定の動きがある。
- ・病理診断体制専門委員会報告  
委員会は継続するが、社会保険委員会と合同で委員会

を開催することも考慮している。

2. 各種委員会報告

(1) 広報委員会(坂本穆彦委員長)

Pathology International 冊子体配付終了後の「会報」の扱いについて

- ・現状通り月例の「会報」を作成し、学会HPに掲載し、1年分の会報の内容のサマリーは、現行通り「会務報告」として「日本病理学会誌」第2巻に掲載する。
- ・年に4回、会報の中から「お知らせ」を会員へ郵送する。

(2) 研究推進委員会(青笹克之委員長)

- ① 第6回病理学会カンファレンスは、2009年7月31日～8月1日につくば国際会議場で開催され99名が参加した。
- ② 第7回病理学会カンファレンスは、2010年8月6日～7日に岡山大学松川昭博教授を世話人に、岡山コンベンションセンターで開催される。
- ③ 参加者の減少が議論されている病理技術講習会は、2010年秋については中止することにした。2011年の病理学会総会時に開催する案も検討されている。

(3) 編集委員会(向井 清委員長)

- ① Pathology International の採択率は約40%であり、投稿数は、今年は350編程度になる予想である。Impact factor は1.3台を保持している。1.5を目指したい。
- ② 診断病理は、今年は61論文を掲載した。投稿はこれまでどおり九州・沖縄支部が一番多いが、他支部からの投稿も増えている。オンライン化については、現在のところ予定はない。
- ③ 剖検輯報は、第50輯は4月に刊行し、現在第51輯のデータベースの作成を開始したところである。

(4) 教育委員会(覚道健一委員長)

- ① 教育委員会にて2008年4月より2回にわたり委員会を開催し、病理コア画像改訂作業を完成させたので、今後ホームページへUPの予定である。
- ② 教育委員会ワークショップ「明日の病理学教育」を、第99回春期総会中に企画している。

(5) 国際交流委員会(松原 修委員長)

- ① 英国病理学会交流事業については、シニア1名、ジュニア2名を隔年で相互に派遣している。またJapan-European Collaborative Award in Pathology についても公募中である。
- ② 日独病理学会交流事業については、来年は日本からドイツ病理学会へ会員を派遣することになっている。
- ③ アジアとの交流事業については、今回の学会に6名International Poster SessionのPoster Presenterとして招待した。

(6) 支部委員会(居石克夫委員長)

- ① いわゆる“大学教室プロベ”について、病理学会と

としての全国レベルでの検討を更に推進してほしいとの要望があった。

- ② モデル事業については、流動的であるが、迅速かつ正確な情報を出来るだけ多く各支部へ報告していただきたい旨の希望が出された。
- ③ PIN オンラインオンリー化に伴う学会広報（会報ならびにお知らせ等）に支部メーリングリストも活用することになった。

(7) 人材育成委員会（上田真喜子委員長）

- ① 平成20年度に実施したアンケート結果の集計を行い、そのデータをもとにワーキンググループで解析を実施し、「コメントと提言」を作成したので会報10月号に掲載した。アンケート結果の概要（パワーポイント）は、ホームページに掲載した。
- ② 今後は、「提言」を具体的に実行していくために、その方策を委員会で討議することになっている。

○協議事項は、以下のとおり、承認、決定した。

1. 平成22年度/23年度役員選任の件

平成22年度/23年度の役員（理事・監事）は、以下のとおり選任された。なお、就任日は、平成22年4月1日からとする。

○理事：19名（ABC順）

理事長 青 笹 克 之  
 理事 深 山 正 久  
 理事 橋 本 洋  
 理事 覚 道 健 一  
 理事 加 藤 良 平  
 理事 黒 田 誠  
 理事 松 原 修  
 理事 本 山 悌 一  
 理事 向 井 清  
 理事 根 本 則 道  
 理事 岡 田 保 典  
 理事 笹 野 公 伸  
 理事 佐 藤 昇 志  
 理事 白 石 泰 三  
 理事 寺 田 信 行  
 理事 上 田 真 喜 子  
 理事 山 口 朗  
 理事 安 井 弥  
 理事 吉 野 正

○監事：2名（ABC順）

監事 真 鍋 俊 明  
 監事 佐 野 壽 昭

○支部長（兼務）：7名（地区順）

北海道 佐 藤 昇 志  
 東 北 本 山 悌 一

関 東 加 藤 良 平  
 中 部 白 石 泰 三  
 近 畿 寺 田 信 行  
 中国四国 吉 野 正  
 九州沖縄 橋 本 洋

2. 平成22年度事業計画並びに収支予算に関する件  
 真鍋俊明財務委員長より、事業計画並びに収支予算について説明があった。収入案は211,110千円、支出案は、202,630千円である。協議の結果、原案のとおり承認した。
3. 100周年記念事業に関する件  
 100周年記念事業を保証する意味で、「病理学学術医療振興基金」より2,000万円を拠出することを承認した（企画委員会報告参照）。
4. 第57回（平成23年度）秋期特別総会会長選出の件  
 長村理事長より、第57回（平成23年度）秋期特別総会会長に応募のあった諸星利男教授（昭和大学）が推薦された。協議の結果、原案どおり承認した。
5. 第101回（平成24年度）総会会長の選出の件  
 長村理事長より、第101回（平成24年度）総会会長に応募のあった岡田保典教授（慶應義塾大学）が推薦された。協議の結果、原案のとおり承認した。

◇平成22年度事業計画ならびに収支予算について：社団法人日本病理学会平成22年度事業計画ならびに収支予算は、以下のとおりである。

○平成22年度事業計画

（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

〔事業の概要〕

I. 学術集会、研究会等の開催

1. 学術集会の開催

- (1) 第99回日本病理学会総会（於東京・樋野興夫会長）  
 (2) 第56回日本病理学会秋期特別総会（於北九州・橋本洋会長）

2. 研究会、講習会等の開催

- (1) 第7回日本病理学会カンファレンス  
 (2) 細胞診講習会  
 (3) 病理診断講習会  
 (4) 技術講習会  
 (5) 各支部における学術・研究集会  
 (6) 第4回診断病理サマーフェスト

3. 公開講座・シンポジウムの開催

II. 学会誌、学術図書等の発行

1. 「日本病理学会会誌」の発行（第99巻第1～2号）  
 2. 「Pathology International」の発行（Vol. 60 4～12, Vol. 61 1～3）  
 3. 「診断病理」の発行（第27巻第2～4号, 第28巻第1号）  
 4. 「日本病理学会会報」の発行（第267～278号）  
 5. 「病理専門医部会報」の発行（2010年 第2～4号、



2011年 第1号)

## III. 研究および調査

1. 「日本病理剖検輯報」の発行 第51輯（平成20年症例）
2. 剖検輯報編集方法の変更・充実
3. 剖検記録データベースの再構築

## IV. 病理専門医等の資格認定

1. 病理専門医・口腔病理専門医の認定・試験の実施及び資格の更新
2. 病理専門医の広告
3. 研修手帳の実施
4. 研修施設の認定および資格の更新

## V. 学術団体との協力、連絡

1. 学術団体等との会議共催および後援
2. 腫瘍取扱い規約等の改訂
3. 海外病理学会との交流
  - (1) 英国病理学会との会員の相互派遣、学術交流
  - (2) ドイツ病理学会との学術交流
  - (3) アジア各国との学術交流

## VI. その他目的を達成するために必要な事業

1. 日本病理学賞（宿題報告）の授与
2. 日本病理学会学術奨励賞の授与
3. 日本病理学会学術研究賞（A演説）の授与
4. 会員の海外派遣
5. 病理学卒前教育の充実
6. 病理診断コンサルテーションシステムの充実
7. インターネットホームページの充実
8. 医師賠償責任保険加入取扱いの実施
9. 病理専門医制度運営、医療業務、学術・研究等の各種委員会の開催
10. 日本病理学会100周年記念事業実施準備

## ○平成22年度収支予算

（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

（単位 円）

科 目	予算額	前年度予算額	増	減	備 考
<b>I. 収入の部</b>					
1. 基本財産運用収入	50,000	50,000		0	
受取利息収入	50,000	50,000		0	
2. 会費収入	70,560,000	71,510,000	△ 950,000		
学術評議員会費収入	28,000,000	29,000,000	△ 1,000,000		
終身会費収入	3,000,000	3,000,000		0	
一般会員会費収入	27,000,000	27,000,000		0	
学生会員会費収入	10,000	10,000		0	
賛助会員会費収入	150,000	150,000		0	
機関会員会費収入	400,000	350,000		50,000	
病理専門医部会費収入	12,000,000	12,000,000		0	
3. 事業収入	132,700,000	122,700,000	10,000,000		
学術集会開催収入	90,000,000	80,000,000	10,000,000		
論文掲載料収入	900,000	900,000		0	

広告料収入	800,000	800,000	0	
刊行物発行収入	14,000,000	14,000,000	0	
専門医制度収入	16,000,000	16,000,000	0	
病理専門医部会収入	4,000,000	4,000,000	0	
講習会等収入	4,500,000	4,500,000	0	
賠償責任保険事務費収入	2,500,000	2,500,000	0	
4. 繰入金収入	3,400,000	2,700,000	700,000	
学術医療基金繰入金収入	3,400,000	2,700,000	700,000	
5. 雑収入	4,400,000	3,400,000	1,000,000	
受取利息収入	400,000	400,000	0	
雑収入	4,000,000	3,000,000	1,000,000	著作権許諾収入増額
当期収入合計 (A)	211,110,000	200,360,000	10,750,000	
前期繰越収支差額	45,481,000	44,851,000	630,000	
収入合計 (B)	256,591,000	245,211,000	11,380,000	

（単位 円）

科 目	予算額	前年度予算額	増	減	備 考
<b>II. 支出の部</b>					
1. 事業費支出	166,500,000	161,000,000	5,500,000		
学術集会開催費支出	89,500,000	84,500,000	5,000,000		
学会誌発行費支出	15,000,000	29,000,000	△14,000,000		英文誌オンライン化
会報発行費支出	3,000,000	2,500,000	500,000		
剖検輯報刊行費支出	11,000,000	10,500,000	500,000		
専門医制度運営費支出	9,000,000	9,000,000	0		
病理専門医部会運営費支出	8,000,000	8,000,000	0		
支部運営費支出	6,500,000	6,500,000	0		
学術奨励等経費支出	3,500,000	4,500,000	△ 1,000,000		
講習会等開催支出	4,500,000	3,500,000	1,000,000		
各種委員会開催支出	3,500,000	3,000,000	500,000		
給与手当支出	8,000,000	0	8,000,000		事業人件費
租税公課支出（法人税等）	5,000,000	0	5,000,000		収益事業法人税等
2. 管理費支出	28,530,000	33,130,000	△ 4,600,000		
給与手当支出	10,000,000	15,000,000	△ 5,000,000		事務局員増員（一部事業費へ）
福利厚生費支出	2,500,000	2,000,000	500,000		
交通費支出	400,000	300,000	100,000		
通信運搬費支出	3,000,000	3,000,000	0		
会議費支出	2,000,000	1,500,000	500,000		
印刷費支出	2,500,000	2,500,000	0		
備品費支出	200,000	200,000	0		
消耗品費支出	500,000	500,000	0		
光熱水料費支出	230,000	230,000	0		
賃借料支出	2,700,000	2,700,000	0		
諸会費支出	900,000	900,000	0		
補助費支出	0	200,000	△ 200,000		
修繕費支出	100,000	100,000	0		
嘱託費支出	2,500,000	2,000,000	500,000		
租税公課（消費税等）支出	500,000	1,500,000	△ 1,000,000		
雑支出	500,000	500,000	0		
3. その他	4,600,000	4,600,000	0		

退職給与引当預金支出	1,600,000	1,600,000	0
学術医療基金引当預金繰入支出他	3,000,000	3,000,000	0
4. 予備費	3,000,000	1,000,000	2,000,000
当期支出合計 (C)	202,630,000	199,730,000	2,900,000
当期収支差額 (A-C)	8,480,000	630,000	7,850,000
次期繰越収支差額 (B-C)	53,961,000	45,481,000	8,480,000

◇第99回総会（平成22年度）：順天堂大学を世話機関として樋野興夫会長、八尾隆史副会長のもとで、平成22年4月27日（火）～4月29日（木 祝日）の3日間、京王プラザホテルで開催された。

宿題報告は、張ヶ谷健一教授（千葉大学）による「病態解析に向けた細胞-細胞、細胞-基質間相互作用の研究-Mam, CD44, ヒアルロンサンの解析」、米澤 傑教授（鹿児島大学）による「ムチン：ヒト癌における臨床病理学的意義と遺伝子発現機構の解明から腫瘍悪性度早期診断システムの構築まで」、上出利光教授（北海道大学）による「組織微小環境の内的調節因子、オステオポンチンの病態病理学」の3題であった。

特別企画として菅野晴夫先生（癌研究会顧問）による「病理の100年を振り返って」の講演が行われた。特別講演は、柳田邦夫氏（ノンフィクション作家）による「科学の一般性、物語の一般性—『2.5人称の視点』が拓くもの」、招請講演は、松原謙一先生（大阪大学名誉教授）による「これからの病理学・診断と未病社会」、教育講演は、浅島 誠先生（産業技術総合研究所）による「脊椎動物の未分化細胞からの臓器形成と分化制御」、間野博行教授（東京大学）による「独自の技術によるがんの責任遺伝子発見—選別化医療から個別医療へ」、森 正樹教授（大阪大学）による「癌幹細胞研究」の3題が行なわれた。一般演題は1,029題が発表された。

このほかシンポジウム8件、ワークショップ12件、ランチオンセミナー20件、コンパニオンミーティング13件、の発表と討論があった。学生ポスター発表、および学術奨励賞受賞者ポスター発表も行われた。

また、系統的病理診断講習会（免疫組織化学）および臓器別病理診断講習会（病理解剖、乳腺、頭頸部、小児、呼吸器）が開かれた。

○今後予定されている総会は以下のとおりである。

- 1) 第56回（平成22年度）秋期特別総会  
世話機関：産業医科大学  
会 長：橋本 洋教授  
会 期：平成22年11月25日（木）～26日（金）  
会 場：西日本総合展示場（北九州市）
- 2) 第100回（平成23年度）総会  
世話機関：東京大学  
会 長：深山正久教授  
会 期：平成23年4月28日（木）～30日（土）  
会 場：パシフィコ横浜

- 3) 第57回（平成23年度）秋期特別総会  
世話機関：昭和大学  
会 長：諸星利男教授  
会 期：平成23年11月17日（木）～18日（金）  
会 場：日本教育会館
- 4) 第101回（平成24年度）総会  
世話機関：慶應義塾大学  
会 長：岡田保典教授  
会 期：平成24年4月26日（木）～28日（土）  
会 場：京王プラザホテル

◇上記総会に関連して開催された理事会、学術評議員会等ならびに総会について：平成22年2月23日に東京・ホテル機山館、および4月26日に京王プラザホテルにて理事会が開催され、4月27日には学術評議員会・病理専門医部会、4月28日には総会が開かれた。総会の席上で、第11回（平成21年度）学術奨励賞授賞式が行われた。また、4月28日には、日本病理学会100周年記念事業発起人会が開催された。

これらの理事会、学術評議員会および総会では、理事長、委員会委員長の報告があった。協議事項としては、総会においては平成21年度事業報告並びに収支決算報告、新名誉会員27名の推戴者並びに新学術評議員32名の候補者、会費値下げ案が、それぞれ理事会承認の原案どおり決定した。また理事会では、選挙制度改革案について学術評議員会および総会にて報告することや、100周年記念事業に関する件、会費値下げ案に関する件、各種委員会委員長および委員の選出、平成21年度下期の新入会員49名（年度合計191名）が、協議の結果それぞれ原案のとおり承認された。

また、学術評議員会では、「選挙制度改革案」（向井企画委員長）などが、病理専門医部会では、「病理関係診療報酬の改定について」（深山病理専門医部会長）など、それぞれ報告・討議が行われた。100周年記念事業発起人会では、実行委員会の活動が報告された。

◇春期理事会：平成22年2月23日（火）にホテル機山館にて春期理事会のほか学術委員会等が開催された。理事会には長村義之、岡田保典、深山正久、黒田 誠、山口 朗、青笹克之、井内康輝、覚道健一、松原 修、本山梯一、向井 清、根本則道、坂本穆彦、佐藤昇志、白石泰三、居石克夫、寺田信行、上田真喜子（以上理事）、石原得博、太田秀一（以上監事）、大藪いづみ、菊川敦子（以上事務局）の各氏が出席した。長村理事長の司会により議事を進行した。議事録署名人には出席者代表として坂本穆彦、山口 朗両理事が指名された。

#### ○報告事項

##### 1. 理事長報告

- (1) 診療報酬改定については、以下の項目等が中医協の答申である。
  - ・病理組織標本作料両の見直し・追加

- ・迅速細胞診の新設
  - ・細胞診断料の新設（穿刺細胞診，体腔液など）
  - ・病理診断料・判断料の見直し
  - ・病理診断料を保険医療機関である診療所でも請求可能とされた
  - ・複数抗体による免疫組織化学の加算が追加された
- (2) 悪性中皮腫の診断用の免疫組織化学染色が保険収載されることが環境省から申し入れがあり，そのための「中皮腫病理診断マニュアル」を井内康輝理事が作成した（病理学会作成）。
  - (3) 医道審議会死体解剖資格分科会報告（12月15日開催）について議事要旨が厚生労働省のホームページに掲載されている。病理解剖資格については，「医師・歯科医師資格を有している」ことを念頭に厳正な審査を行うという内容であった。また，剖検数が10体未満の施設での解剖を資格申請に使うことについては，個別に審査するということが各都道府県の担当部署あて，厚労省から事務連絡されたとのことである。
  - (4) 厚生労働省がん対策推進室より，がん診療専門医師育成に1億9千万円の予算が獲得され，病理医育成に努めたい旨提示が有り，1月29日に長村と国立がんセンター廣橋説雄総長が，鈴木健彦がん対策推進室長と面談した。病理医不足対策については，通常より前倒しで平成23年度予算要求に反映させるとのことである。
  - (5) モデル事業継続について，医学会と関連4学会の代表とで「モデル事業関連学会協議会」が構成された。当初の予定の5年間のモデル事業の終了に伴って内科学会での事務局業務も終了したが，2010年度の予算についても確保されたので，これまでの事例の評価業務は遂行するが，新たな受付については，一般社団化した事務局を設けて運営することが決定された。事務局の運営には，外科学会，内科学会，病理学会，法医学会，日本医学会があたる案が提示されている。
  - (6) 病理学会事務局員の応募者を2月9日に面接し，適格者1名を決定した。
  - (7) 財団法人医療研修推進財団からの依頼でeラーニングの委員会に委員を1名出すこととした（理事会後，向井清先生を推薦することとした）。

## 2. 各種委員会委員長報告

### (1) 企画委員会（深山正久委員長）

- ① 新公益法人への移行についてはタイムリミットが3年半後である。中間報告を病理学会ホームページの会員サイトに掲載し意見を募集している。2月末が締切りであるが，あまり周知されていないので，閲覧しやすいようにしてさらに周知したい。今後については，次期の理事会・常任理事会に検討していただきたい。
- ② 100周年記念事業については，企画記念事業である情報ネットワークセンターにUMINのバックアップが

得られることになった。そのため，当初予定していたこれに関わる経費が縮小され，記念誌や祝典へのさらなる経費にすることができるとはならないかと考えられる。現在約250万円を寄付していただいている。寄付については10万円以上を特別支援会員，10万円未満を支援会員として，100周年記念誌にお名前を掲載することを，記念誌編集委員会に検討の依頼をしている（森編集長内諾）。

### (2) 学術委員会（岡田保典委員長）

- ① Pathology International の正式な契約を間もなく行うことになっている。

### (3) 病理専門医制度運営委員会（黒田 誠委員長）

- ① 今年の細胞診講習会は，3月13日・14日に神戸大学で行われる。86名の応募があり全員が受講できる。
- ② 今年からの第99回日本病理学会学術総会時の剖検講習会も，400名の会場にすでに200名以上の申込がある。
- ③ 来年・再来年の専門医試験の会場は，東京医科大学を予定している。

### (4) 広報委員会（坂本穆彦委員長）

- ① ホームページの管理・運営は順調に行われている。

### (5) 医療業務委員会（根本則道委員長）

- ① 診療報酬改定については，理事長報告の通りである。
- ② 精度管理委員会では，乳癌学会所属の病理医とともに，HER2 およびホルモン受容体検索の精度管理に関するアンケート調査を行う予定である。

### (6) 口腔病理専門医制度運営委員会（山口 朗委員長）

- ① 規程・試験要綱等の改定案を策定中であり，4月の理事会で審議した後11月の総会で承認を得たい。

### (7) 教育委員会（覚道健一委員長）

- ① ホームページに改訂版の「コア画像」をUPした。

### (8) 100周年企画記念事業選定・実施委員会（根本則道委員長）

- ① 情報ネットワークセンターについては，UMINの担当者と，当委員会のコアメンバーとで内容について打合せを始めた。
- ② 剖検輯報のデータベース化されていない30万件について，上記事業で縮小された資金を使ってデータベース化することも検討してほしい。

## ○協議事項

### 1. 第56回（平成22年度）秋期特別総会学術研究賞演説（A演説）・B演説担当者の選出の件

学術委員会より，標記特別総会における学術研究賞演説（A演説）7題（応募18題），B演説4題（応募12題）の推薦があった。協議の結果，それぞれ原案通り決定した（応募順）。

#### ・学術研究賞演説（A演説）：

- (1) 高橋 智（名古屋市立大学大学院共同研究センター



病理部)

- (2) 小林 博也 (旭川医科大学病理学講座免疫病理分野)
- (3) 佐藤 保則 (金沢大学医薬保健学域医学系形態機能病理学)
- (4) 樋田 京子 (北海道大学大学院歯学研究科口腔病態学講座 血管生物学教室)
- (5) 平岡 伸介 (国立がんセンター研究所病理部)
- (6) 藤井 誠志 (国立がんセンター東病院臨床開発センター臨床病理部細胞動態室)
- (7) 伊倉 義弘 (大阪市立大学大学院医学研究科病理病態学)

・ B 演説:

- (1) 原田 博史 (岩手医科大学歯学部病因病態制御学講座口腔病理学分野)
- (2) 山内稚佐子 (国立がんセンター東病院臨床開発センター臨床腫瘍病理部)
- (3) 本山 悌一 (山形大学医学部人体病理学教室)
- (4) 尾島 英知 (国立がんセンター研究所病理部)

2. 第 11 回 (平成 21 年度) 学術奨励賞受賞者の選出の件  
学術奨励賞選考委員会より、第 11 回 (平成 21 年度) 学術奨励賞受賞候補者 7 名 (応募 9 名) の推薦があった。協議の結果、原案のとおり決定した (ABC 順)。

- (1) 浅野 直子 (長野県立須坂病院病理・臨床検査科)
- (2) 榎本 篤 (名古屋大学高等研究院)
- (3) 西原 広史 (北海道大学大学院医学研究科探索病理学講座)
- (4) 池田 博子 (金沢大学医学部附属病院)
- (5) 三上 修治 (慶應義塾大学病院病理診断部)
- (6) 奥寺 康司 (横浜市立大学医学部病態病理学)
- (7) 竹内 賢吾 (財団法人癌研究会癌研究所病理部)

3. 平成 22 年度新名誉会員候補者名簿に関する件

平成 22 年度新名誉会員候補者の名簿 (2 月 23 日現在では、26 名) を承認した。

4. 平成 22 年度新学術評議員候補者名簿に関する件

平成 22 年度新学術評議員候補者名簿 (32 名) を承認した。

5. 「病理学学術振興基金の設置等に関する要領」および「病理学国際交流基金の設置等に関する要領」の改正案の件  
取崩について、これまでは「理事長が別に定める」とあったのを「理事会の承認を得なければならない」と改訂することとした。協議の結果承認されたので、次回総会に諮ることとした。

6. 英国病理学会派遣会員選考等に関する件

・ 英国病理学会への派遣について、シニア 1 名は昨秋の理事会で承認を受けている石川雄一学術評議員 (癌研病理部) である。

・ 国際交流委員会が、ジュニア 2 名の再公募を行い、10 名の応募者から次の 2 名の推薦があった。協議の結果、原案の通り決定した (ABC 順)

- (1) 池田純一郎 (大阪大学大学院医学系研究科病理病態学)
- (2) 仙谷和弘 (広島大学大学院医歯薬学総合研究科分子病理学研究室)

・ 日本 - ヨーロッパ共同研究 (アワード) については、野口雅之学術評議員 (筑波大学) を推薦することが提案され、協議の結果、原案の通り決定した。

7. 会費値下げに関する件

常任理事会より提案された会費値下げ案について協議した。

Pathology International のオンラインオンリー化に伴い、約 1,400 万円の値引きが見込まれる。これより経費 500 万円 (新事務局員の雇用費および公益法人化等予備費) を差し引いた約 900 万円が会費値下げに充当できる。値下げの対象は学術評議員 (20,000 円徴収 1,400 名) と、一般会員 (15,000 円徴収 1,670 名) である。

A 案 学術評議員 16,000 円 一般会員 13,000 円にした場合、894 万円の収入減となる。

B 案 学術評議員 17,000 円 一般会員 13,000 円にした場合、754 万円の収入減となる。

一般会員を 12,000 円にとの意見もあったが、今後、安定的な収支の見込みがたてば、将来再度検討するということにして、本理事会で A 案を承認した。値下げは、平成 23 年度からであるので、4 月の総会で承認をとり、平成 23 年度予算案に反映させることとした。

◇ 理事会: 平成 22 年 4 月 26 日 (月) 京王プラザホテルにて理事会および各種委員会が開催された。理事会には青笹克之、向井 清、寺田信行、上田真喜子、佐藤昇志、深山正久、山口朗、橋本 洋、覚道健一、加藤良平、黒田 誠、松原 修、本山悌一、根本則道、岡田保典、笹野公伸、白石泰三、安井 弥、吉野 正 (以上理事)、真鍋俊明 (以上監事)、樋野興夫 (第 99 回日本病理学会総会会長)、八尾隆史 (同副会長) 菊川敦子、大藪いづみ、岩井理央 (以上事務局)、の各氏が出席した。青笹理事長の司会により議事を進めた。議事録署名人には出席者を代表して橋本 洋、黒田 誠両理事が指名された。

○ 報告事項

1. 理事長報告

- (1) 3 月 18 日開催の常任理事会準備会の議事録を理事に送付し、意見を聴取した。
- (2) 理事・理事長の選出方法について意見交換した。
- (3) 各種委員会委員の任期は原則として 2 年とし、執行部の交代に併せて代わることを常任理事会として確認した。
- (4) 4 月 14 日開催の常任理事会において、向井企画委員長より提案された理事・理事長選出方法の素案について意見交換をした。改革案を理事会、学術評議員会、総会に報告した後、ホームページに掲載して広く会員の意見を聞くこととした。
- (5) 日本医療機能評価機構の協議委員には、黒田誠理事の任

期が1年残っているため平成22年度は継続とし、運用上は根本先生、場合によっては深山先生が代理出席をする。平成23年度には新たな委員を推薦することとした。

- (6) 日本専門医制評価・認定機構への代表者として青笹克之理事長を、協議委員として深山正久常任理事を推薦した。
- (7) 日本医学会評議員として青笹克之理事長を、連絡委員に向井清副理事長を推薦した。

また、用語委員として横崎 宏神戸大学教授を、用語代委員として豊國伸哉名古屋大学教授を推薦することとした。

## 2. 各種委員会委員長報告

### (1) 企画委員会 (向井 清委員長)

- ① 選挙制度改革案については協議事項で説明・提案をする。
- ② 学会員以外の学会発表について検討をしていくこととした。
- ③ 平成25年11月までに、一般社団法人か公益認定社団法人に申請しなければならないため、公益認定社団法人に移行することも含めて広く検討していくこととした。

### (2) 広報委員会 (岡田保典委員長)

- ① 本年度より Pathology International の online only 化と会報の配布方法の変更に伴い、HP をリニューアルすることとした。HP リニューアル委員 (虎の門病院藤井丈志先生、東京大学宇於崎宏先生、札幌医科大学一宮慎吾先生、京都府立医大伊東恭子先生) を中心に検討することとした。
- ② これまでに決定されているように、紙媒体による「お知らせ」を年4回配布することとした。

### (3) 財務委員会 (上田真喜子委員長)

- ① 収支決算案については、協議事項で説明・提案をする。
- ② 2月の理事会で承認された会費値下げ案については、総会に諮ることとした。

### (4) 学術委員会 (佐藤昇志委員長)

- ① 若手病理学者、病理医の活性化のため、短期的、中・長期的視点で検討をすすめていくこととした。
- ② 学術活動の更なる活性化のため、研究推進委員会、病理診断講習会委員会、サマーフェスト委員会、支部選出学術委員会(支部学術活動支援のため、新設)と連携して活動をしていくこととした。

### (5) 研究推進委員会 (安井 弥委員長)

- ① 研究推進委員会の位置づけと役割について確認を行った。主に、病理学会カンファレンスの継続と充実を担う。
- ② 第7回日本病理学会カンファレンスは、本年8月6日・7日に岡山コンベンションセンターにて行われる。テーマは「炎症と免疫、癌」で、世話人は岡山大学の松川昭博教授である。

- ③ 第8回病理学会カンファレンス(平成23年度)の世話人は、信州大学の中山淳教授があたる予定である。

### (6) 編集委員会 (覚道健一委員長)

- ① 剖検輯報第51輯の編集は順調に進んでいる。データ登録様式等について検討を行っている。
- ② Pathology International の2009年インパクトファクターが1.4を越える見込みである。
- ③ 「診断病理」が口腔病理専門医へ配本されていないことについては、専門医制度の違いもあることから口腔病理側の意見を聞いて検討することとした。
- ④ 「病理技術マニュアル」の改訂や、「病理コア画像」の出版物について検討しているとの報告があったが、理事会では、これについては、病理学会の事業としてやるかどうかも含めて検討する必要があるとの意見が出された。
- ⑤ PI と日本病理学会雑誌の表紙デザインの変更について検討することとした。

### (7) 病理専門医制度運営委員会 (深山正久委員長)

- ① 施設審査委員会にて、認定施設および登録施設の更新審査を行った。認定施設更新申請301のうち7施設が更新不可であった。剖検数不足や研修指導医の不在が理由である。登録施設の更新申請は118で2施設が更新不可であった。剖検数が0の施設と、剖検輯報へのデータ未提出が理由である。大学病院においても剖検数の減少がみられることについて意見の交換を行った。
- ② 平成21年度の試験は、80名が受験し64名が合格した。合格率は80%であった。
- ③ 平成22年度の試験は、7月24日・25日に京都府立医大にて行われる。病理専門医の受験資格として平成22年度以降は原則として剖検例40例以上となった。平成22年度の試験については、すでに50例以上を経験している方がいることを考慮し、50例以上、あるいは40例以上と剖検講習会受講のどちらでも可とすることにした。平成23年度以降は40例以上と剖検講習会受講が必須になる。
- ④ 日本専門医制評価・認定機構のヒアリングを受けた際、次のような指摘やアドバイスを受けた。
  - 1) 指導医の資格更新の条件に、「医療安全、臨床倫理に関する講習」の受講などを取り入れているか。
  - 2) 研修手帳の使用開始時点での登録、申請などの制度はあるか。剖検例については剖検輯報の記載時に登録することにしてはどうか。電子登録を取り入れてはどうか。
  - 3) 研修プログラムの履修を地域で保証するシステムを考えるとどうか。これらについては、病理専門医制度運営委員会内にワーキンググループを作り、検討していくこととし

- た。
- ⑤ 従来のモデル事業を検証し、事業を引き継ぐものとして「一般社団法人日本医療安全調査機構」が新設された。日本医学会、内科学会、外科学会、病理学会、法医学会が参加している。長村前理事長にかわり青館理事長が機構の理事に加わることになった。機構のワーキンググループに深山常任理事、そのオブザーバーとして死因究明委員会の黒田委員長が参加する。
- (8) 医療業務委員会（根本則道委員長）
- ① 社会保険委員会（委員長：稲山嘉明）
- 1) 平成22年度の主な診療報酬改定は、組織診断料が500点になり、診療所でも算定可能となったこと、細胞診断料が新設（240点）されたこと、免疫染色では1臓器につき400点に増額されたことに加えて、確定診断のために4種類以上の抗体を用いた免疫染色が必要な患者に対して、標本作製を実施した場合には、1,600点を加算することができる、などである。
  - 2) 次回の改正時には、開業病理診断科での病理診断料の算定や、病理診断管理加算の新設等を要望していくこととする。
- ② コンサルテーション委員会（委員長：森谷卓也）
- 1) コンサルテーション結果の取り扱いについて検討する。
  - 2) コンサルテーションシステムの今後のあり方を検討する。
- ③ 精度管理委員会（委員長：鬼島 宏）
- 1) HER2の精度管理と、K-rasの評価を行う。
- ④ 剖検・病理技術委員会（委員長：柳井広之）
- 1) 病理業務量の実態調査については、病理学会以外で調査されているものがあるのであれば、参考にする。
- ⑤ 病理診断体制専門委員会（委員長：佐々木毅）
- 1) 教室プロベ、衛生検査所における病理診断行為の検討を行う。
- (9) 口腔病理専門医制度運営委員会（山口 朗委員長）
- ① 歯科臨床研修制度にともなう規定、細則の改定について検討中である。
  - ② 口腔病理専門医研修カリキュラムの内容を検討中である。
- (10) 教育委員会（本山悌一委員長）
- ① 学部5・6年次において、病理学が医学部教育にどのように有効に関わっていくべきかを検討する。
  - ② 「教育関係のワークショップあるいはシンポジウム」「学生ポスター」の開催を継続していきたい。
  - ③ 「病理コア画像」書籍化の可能性を検討した。著作権の問題や、内容について具体的な詰めを行う必要があるとの認識である。「病理コア画像」を各大学で利用してもらうようPRしていく。
- (11) 国際交流委員会（笹野公伸委員長）
- 国際交流事業の経費予算は、上限150万円で行うことを確認した。
- ① 日英交流事業について、本年はシニア1名、ジュニア2名を派遣する。  
来年は同じくシニア1名、ジュニア2名を学術集會に招くことにする。
  - ② 日独交流事業は隔年でシニアクラス1名ずつを学術集會の場で招聘しあうこととする。
  - ③ アジアからの若手病理医、研究者の招聘事業は今後秋の学術集會会長が希望する場合に限り実施する。
  - ④ 他のアジア諸国との交流事業として、香港病理学会との間で日英、日独と同様に隔年にてシニアクラスを招聘する事が決定された。
- (12) 支部委員会（橋本 洋委員長）
- ① 各支部での病理医の育成、学部学生・研修医の病理医へのリクルートの取り組みなど活動状況の報告、意見交換を行った。
  - ② 各支部でのメーリングリスト作成の必要性を審議し、完備するように努めることにした。
- 協議事項は、以下のとおり、承認、決定した。
1. 平成21年度事業報告ならびに収支決算に関する件  
上田財務委員長より、平成21年度事業報告並びに収支決算書(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)(案)の説明と提案があった。当期収入は241,736,855円、当期支出は233,921,154円であり、当期収支差額は7,815,701円である。前期からの繰越を含め次期繰越額は70,680,321円である。協議の結果、原案のとおり承認された。総会に諮ることとした。
  2. 平成22年度各種委員会委員長・委員選出の件  
青館理事長より、平成22年度各種委員会委員長・委員の選出確認の提案があった。橋本 洋人材育成委員長より、「若手医師確保に関する委員会」の豊國伸哉委員長と「男女共同参画委員会」の加藤良平委員長を正式に人材育成委員会委員にしてもらいたいとの要望があり、これも含めて協議の結果、原案のとおり決定した。また席上、学術奨励賞選考委員（役職指定以外6名）の選出を行った。投票の結果、松原 修（委員長）、加藤良平、岡田保典、寺田信行、安井 弥、吉野 正の各理事に決定した。
  3. 平成22年度新名誉会員の推薦に関する件  
青館理事長より、平成22年度新名誉会員推薦者名簿(27名)が諮られた。協議の結果、原案のとおり承認された。総会に諮ることとした。今後の候補者リストの作成については略歴をつけることとする。
  4. 平成21年度新入会員の承認の件  
青館理事長より、平成21年度新入会員名簿（前回理事会以降平成22年3月1日～平成22年3月31日）分（12名



年間 191 名) が諮られた。協議の結果、原案のとおり承認された。

#### 5. 選挙制度改革案の件

向井企画委員長より選挙制度改革案について説明があった。

日本病理学会の定款における目的として「病理学の学理およびその応用についての研究の振興とその普及を図り、もって学術の発展と人類の福祉に寄与する」とある。この目的達成において理事会が主導的役割を果たすことから、選挙制度改革につき次の通り提案する。

現在の正会員全員での郵便投票を、学術評議員による郵便投票とし、定員までの上位得票者を理事候補者として秋期特別総会時に正会員全員で選任する。理事長の選任についても、現在の正会員全員による郵便投票を、学術評議員による郵便投票とし、秋期特別総会時に正会員全員により選任する。

タイムスケジュールとしては理事会で承認を受け、4月27日の学術評議員会、28日の総会で改革の概要を提示する。総会終了後、病理学会 HP に改革案を掲載して、会員よりの提言を受ける。会員からの提言を十分検討した後作成された最終案を、常任理事会、企画委員会、理事会の承認を経て2010年の第56回秋期特別総会で決議する。2011年の選挙から実施する。

これらの事柄について学術評議員会、総会にて報告し、学術評議員、会員のご意見をいただくこととした。

#### 6. 100周年記念事業の件

深山100周年記念事業実行委員会事務局長より説明と提案があった。

100周年記念事業では、企画記念事業、記念誌、記念式典と記念パーティを行う。会員の寄付は、現在920万円である。企画記念事業では「病病情報管理ネットワークセンター」を全国大学病院ネットワーク(UMIN)と共同開発することとなった。このたびの役員改選により、100周年記念事業実行委員会に常任理事会の先生方にも加わっていただくことになった。これらのことを発起人会で報告する。100周年企画記念事業選定・実施委員会では、UMINとの共同開発の窓口として、今後、2011年まで活動を継続し、病病情報管理ネットワークセンターの設置、運用の開始にこぎつける予定。その後の運営については、病理学会にしかるべき委員会を設置し、センターの運用とそれに付随する改良等について、検討することとした。また、当面、開発段階として、病理学会の各委員会のご協力を得て、本システム開発を進めたいと考えているが、広く会員、委員会からの意見を募ることとした。ネットワークセンターの運用経費については、財務委員会を中心に検討を行うこととした。

◇会員総会：平成22年4月28日(土)に京王プラザホテルコンコードABCにて、正会員3,682名のうち1,908名(うち

委任状出席者1,343名)の出席を得て開催された。議長に樋野興夫会長を選び議事を進行した。議事録署名人には、出席者を代表して澤井高志(岩手医科大学)、豊國伸哉(名古屋大学)の両会員が指名された。

#### ○報告事項

##### 常任理事会報告

#### 1. 青笹克之理事長

青笹克之新理事長より、基本方針、会員数の推移、カテゴリー別会員数、新役員の紹介があった。

#### 1) 基本方針

病理学会の目的として定款には次のように記載されている。「この法人は病理学に関する学理及びその応用についての研究の振興とその普及を図り、もって学術の発展と人類の福祉に寄与する。」

このことから病理学会活性化を図るため主な方針として次のことを掲げる。

1. 学術活動の充実、強化(学術委員会)
2. 理事、理事長選挙方法の改革(企画委員会)
3. 各種委員会活動の活性化：原則1学術評議員が1委員としたことから従来に比べ1.7倍の学術評議員の参加を得られた。
4. 病理医の業務環境の改善(医療業務委員会)

#### 2) 会員数の推移

近年、一般会員の数が減少してきている

#### 3) カテゴリー別会員数

一般会員のうち、医師・歯科医師以外の会員の占める割合が増えていることから、病理学会の活動についても検討していく必要がある。

#### 4) 新役員は次の通りである。

○理事：19名

理 事 長	青 笹 克 之
副 理 事 長	向 井 清
副 理 事 長	寺 田 信 行
常 任 理 事	上 田 真 喜 子
常 任 理 事	佐 藤 昇 志
常 任 理 事	深 山 正 久
理 事	橋 本 洋
理 事	覚 道 健 一
理 事	加 藤 良 平
理 事	黒 田 誠
理 事	松 原 修
理 事	本 山 悌 一
理 事	根 本 則 道
理 事	岡 田 保 典
理 事	笹 野 公 伸
理 事	白 石 泰 三
理 事	山 口 朗
理 事	安 井 弥

- 理事 吉野 正  
 ○監事：2名  
 監事 真鍋 俊明  
 監事 佐野 壽昭  
 ○支部長（兼務）：7名  
 北海道 佐藤 昇志  
 東北 本山 悌一  
 関東 加藤 良平  
 中部 白石 泰三  
 近畿 寺田 信行  
 中国四国 吉野 正  
 九州沖縄 橋本 洋

#### ① 理事長報告

- 1) 剖検数が10体未満の施設での解剖を死体解剖資格申請に使うことについては個別に審査するとの厚生労働省の通達が出された。
- 2) 公益法人化についてはホームページに中間報告を掲載して会員の意見を募っている。公益認定社団法人を目指すかどうかについても検討中である。
- 3) 100周年記念事業については、現在寄付の依頼をしているところであり、これまでに約1,000万円弱のご寄付をいただいている。
- 4) 医療関連死モデル事業については、新たに「日本医療安全調査機構」の立ち上げが行われた。
- 5) 本年度の専門医試験は7月24日、25日に京都府立医大にて行われる。
- 6) PINのonline only化に伴って、Wiley-Blackwell社から出版費の値下げを提示された。それを基にした会費の値下げ案を作成したので、協議事項として財務委員長よりお諮りする。

#### ② 広報委員会

- 1) 今年度よりPathology Internationalのonline only化に伴い、紙媒体による「お知らせ」を年4回配布する。HPもリニューアルする予定である。

#### ③ 編集委員会

- 1) Pathology Internationalの2009年のインパクトファクターが1.4を超える見込みである。

#### ④ 国際交流委員会

- 1) 日英交流では、本年はシニア1名。ジュニア2名を英国に派遣する。
- 2) 日独交流では、隔年でシニア1名ずつの相互派遣を検討している。

#### ⑤ 支部委員会

- 1) 支部メーリングリストの充実に努める。

#### 2. 向井 清副理事長（企画委員会報告）

選挙制度改革案について、向井委員長より説明があった。日本病理学会の定款における目的として「病理学の学理およびその応用についての研究の振興とその普及を図

り、もって学術の発展と人類の福祉に寄与する」とある。この目的達成において理事会が主導的役割を果たすことから、選挙制度改革につき次の通り提案する。

理事・理事長は病理学に十分な経験を有し、精通していることが求められる。この役員の選挙権者は病理に専任し、一定の見識を有する者であるべきである。社団法人化の際に「社員総会において選任する」ということを字義通りに解釈し、現在のような正会員全員による投票で役員を選出・選任するようになった。しかし他学会の多くでは学会歴が長く、学会運営に見識の有る会員である評議員あるいは代議員が役員を選出している。病理研究歴7年以上、5年以上の病理学会会員歴があり、一定の条件を満たして学術評議員となった会員による役員の選出の方が病理学を専攻していない又は病理学の経験の浅い会員を含めた全会員による役員の選出よりも、より適任な役員を選ぶことができる。以上の観点から役員候補の選出を学術評議員が行い、その候補者を総会で選任するという方式を提案する。手順は、現在の選挙と変わらない。現在の正会員全員での郵便投票を、学術評議員による郵便投票とし、定員までの上位得票者を理事候補者として秋期特別総会時に正会員全員で選任する。理事長の選任についても、現在の正会員全員による郵便投票を、学術評議員による郵便投票とし、秋期特別総会時に正会員全員により選任する。

この選挙制度改革案のメリットとしては、次のことがあげられる。病理学に精通する学術評議員による投票は学会の運営にふさわしい方を選出できる。学術評議員が学会の運営により深く関わることができ、学会活動のモチベーションが高まる。各種委員会の委員は学術評議員に限られており、役員選挙でもその役割がより重要となる。定款の変更の必要がない。

デメリットとしては、「正会員全員で選ぶ」という一体感がなくなると感じられる。しかし、最終的な承認は総会での正会員の総意による。評議員・代議員制を敷く他学会の役員選出方法と大きな違いはない。学術評議員の投票結果に疑義があれば総会で討論することができる。タイムスケジュールは、次の通りである。4月26日の企画委員会・理事会で承認を受ける。4月27日の学術評議員会、28日の総会で改革の概要を提示する。総会終了後、病理学会HPに改革案を掲載して、広く会員よりの提言を受ける。会員からの提言を十分検討した後作成された最終案を、常任理事会、企画委員会、理事会の承認を経て2010年の第56回秋期特別総会で決議する。2011年の選挙から実施する。

選挙制度改革案について、会場より次の質問があった。学術評議員でない病理専門医にも、選挙権を与えていただきたい。これに関しては、今後検討するとの理事長の回答であった。

## 3. 佐藤昇志常任理事（学術委員会報告）

- ① 若手病理学者、病理医の活性化のために具体的な活動をしていくため、意見をいただきたい。
- ② 学術活動の更なる活性化のために、以下の委員会と協調連携していくこととした。研究推進委員会、病理診断講習会委員会、サマーフェスト委員会、さらに支部選出学術委員会を新設した。また委員会ではないが学術アドバイザー 18 名を選び、意見を聞くこととした。
- ③ 研究推進委員会では第 7 回日本病理学会カンファレンスを次の通り行う。平成 22 年 8 月 6-7 日岡山コンベンションセンターにてテーマは「炎症と免疫、癌」である。世話人は岡山大学の松川昭博教授で、演題の締め切りは 6 月 4 日である。

## 4. 深山正久常任理事（病理専門医部会報告）

- ① 病理専門医試験について、過去の合格率の表を呈示した。  
病理専門医の受験資格として平成 22 年度以降は原則として剖検例 40 例以上となった。平成 22 年度の試験については、すでに 50 例以上を経験している方がいることを考慮し、50 例以上、あるいは 40 例以上と剖検講習会受講のどちらでも可とすることにした。平成 23 年度以降は 40 例以上と剖検講習会受講が必須になる。剖検講習会は来年以降毎年開催する予定である。
- ② 専門制評価・認定機構のヒアリングを受けた際、次のような指摘やアドバイスを受けた。
  - 1) 指導医の資格更新の条件に、「医療安全、臨床倫理に関する講習」の受講などを取り入れているか。
  - 2) 研修手帳の使用開始時点での登録、申請などの制度はあるか。剖検例については剖検報の記載時に登録することにはどうか。電子登録を取り入れてはどうか。
  - 3) 研修プログラムの履修を地域で保証するシステムを考えてはどうか。  
これらについては、病理専門医制度運営委員会内にワーキンググループを作り、検討していくこととした。
- ③ 死因究明委員会  
従来のモデル事業を検証し、事業を引き継ぐものとして「一般社団法人日本医療安全調査機構」が新設された。日本医学会、内科学会、外科学会、病理学会、法医学会が参加している。
- ④ 医療業務委員会
  - 1) コンサルテーション委員会  
コンサルテーション結果の取り扱いや今後のあり方についても検討していくこととした。
  - 2) 精度管理委員会  
HER2、k-ras の評価を行う。
  - 3) 剖検・病理技術委員会

病理業務量の実態調査については、病理学会以外で調査されているものがあるのであれば、参考にさせていただきたい。

- 4) 病理診断体制専門委員会  
教室プロローベ、衛生検査所における病理診断行為の検討を行う。
  - 5) 社会保険委員会  
平成 22 年度診療報酬改定では、組織診断料の増額や細胞診断料の新設等、重要な項目のいくつかが実現できた。次回の改正時には、開業病理診断科での病理診断料の算定や、病理診断管理加算の新設等を要望していくこととする。
5. 100 周年記念事業の件  
深山 100 周年記念事業実行委員会事務局長より報告があった。
- ① 寄付金：学会員方より現在 920 万円が寄せられている。
  - ② 記念誌の原稿：依頼原稿 50% 執筆。さらに一般の会員から募集中である。
  - ③ 企画記念事業：病理情報ネットワークセンターを全国大学病院ネットワーク（UMIN）と共同開発することとなった。統括は青笹理事長である。
  - ④ 記念式典、記念パーティを行う。
  - ⑤ 財務：今後会員以外からの寄附等、具体的な財務委員長として、長村前理事長があたる。

## ○協議事項

1. 平成 21 年度事業報告ならびに収支決算に関する件  
上田真喜子財務委員長より、平成 21 年度事業報告並びに収支決算書（平成 21 年 4 月 1 日から平成 22 年 3 月 31 日まで）（案）の説明と提案があった。協議の結果、原案の通り承認された。当期収入は 241,736,855 円、当期支出は 233,921,154 円であり、当期収支差額は 7,815,701 円である。前期からの繰越を含め次期繰越額は 70,980,321 円である。
2. 新名誉会員の推薦に関する件  
青笹克之理事長より、平成 22 年度新名誉会員推薦者名簿（27 名）が諮られた。  
協議の結果、原案のとおり承認された。
3. 新学術評議員の承認の件  
青笹克之理事長より、平成 22 年度新学術評議員名簿（32 名）が諮られた。  
協議の結果、原案のとおり承認された。
4. 会費値下げに関する件  
上田真喜子財務委員長より Pathology International の online only 化に伴う会費の値下げについて説明と提案があった。値下げの対象者は学術評議員および一般会員である。PIN online only 化に伴う値下げ可能額の試算としては、PIN による減額 1,400 万円から経費 500 万円（新事務局員の雇用



および予備費)を引いた値下げ可能額が900万円(上限)となる。このことから、学術評議員会費を現行の20,000円から16,000円に、一般会員会費を15,000円から13,000円にすることが提案された。協議の結果、原案の通り承認された。

会場より、大学院生・研修医の会費(10,000円)についても値下げを検討してほしいとの要望があった。今後、収支を勘案して検討していきたいとの回答があった。

#### 5. 基金要領改定の件

青笹克之理事長より「病理学学術医療振興基金の設置等に関する要領」および「病理学国際交流基金の設置等に関する要領」の改定について、説明と提案があった。改定案は次の通りである。

それぞれの要領第9条「この要領に定めるもののほか、基金の管理及び処分に関し必要な事項は、理事長が別に定める。」を「この要領に定めるもののほか、基金の管理及び処分に関し必要な事については、理事会の承認を得なければならない」とするものである。

協議の結果、原案の通り承認された。

◇新名誉会員の推戴について：平成22年度における新名誉会員は、下記の27名が推戴された。(ABC順)

天野 殖	青木 幹雄	藤岡 保範	藤原 正之
箱崎 半道	花之内基夫	原田 孝之	橋詰 良夫
畑中 薫	池原 進	井上 清美	岩崎 宏
鎌田 義正	木村 雄二	桑原 紀之	前田昭太郎
水口 國雄	実藤 隼人	関根 一郎	下村 英明
杉浦 浩	田村 穰	角田 弘	植田 規史
上山 義人	渡邊 信	安原 正博	

◇新学術評議員の決定について：平成22年度新学術評議員は、下記の32名に決定した。(ABC順)

青木 茂久	新井 恵吏	藤田 茂樹	藤原 正親
古田 玲子	古屋 充子	廣瀬 善信	池田 博子
池田純一郎	稲村健太郎	蔣 世旭	桂 奏
河村 俊治	久保田佳奈子	倉田 厚	前田 初彦
松坂 賢一	森 清	西原 広史	野本 一博
大橋 寛嗣	小野寺正征	酒井 康裕	佐藤 永一
高田 理恵	高田 晋一	寺崎 泰弘	塚本 吉胤
和田 直樹	山岸晋一郎	山野 剛	吉田 功

◇平成21年度学術奨励賞の授与について：平成22年4月28日の総会席上青笹理事長から、第11回(平成21年度)学術奨励賞受賞者 浅野直子(長野県立須坂病院)、榎本 篤(名古屋大学)、西原広史(北海道大学)、池田博子(金沢大学)、三上修治(慶應義塾大学)、奥寺康司(横浜市立大学)、竹内賢吾(癌研究会)に、賞状および記念品が授与された。

1. 加齢EBV関連B細胞リンパ増殖異常症：高齢者での

EBV陽性Hodgkinリンパ腫との臨床病理学的比較検討：浅野 直子(長野県立須坂病院病理・臨床検査科)

2. がんの進展および神経細胞移動におけるアクチン結合タンパク質Girdinの機能の解明：榎本 篤(名古屋大学高等研究院)
3. シグナル伝達分子の分子病理学的解析；Crkファミリー蛋白と腫瘍：西原 広史(北海道大学大学院医学研究科探索病理学講座)
4. 慢性肝胆道疾患に関する分子病理学的研究：池田 博子(金沢大学医学部附属病院)
5. 腎細胞癌の浸潤・転移の分子機構：三上 修治(慶應義塾大学病院病理診断部)
6. 肺癌におけるがん遺伝子・がん抑制遺伝子異常の生物学的・臨床病理学的意義：奥寺 康司(横浜市立大学医学部病態病理学)
7. ALK肺癌における診断法の確立、新規融合遺伝子の同定および臨床病理学的特徴の解明：竹内 賢吾(財団法人癌研究会癌研究所病理部)(ABC順)

◇学術研究賞(A演説)、B演説の選考について：第56回(平成22年度)秋期特別総会学術研究賞演説(A演説)、B演説については、それぞれ18題、12題の応募があった。2月23日の学術委員会で審議し、投票の結果、7題、4題を選考した。本件は、同日の理事会において、同委員会案のとおり決定した。

学術研究賞(A演説)(応募順)

1. 前立腺発癌化学予防に対する実験的アプローチとそのメカニズムの解明：高橋 智(名古屋市立大学大学院共同研究センター病理部)
2. 癌免疫、アレルギー制御に関わるHLAクラスII分子結合性ペプチド抗原の分子病理学的解析：小林博也(旭川医科大学病理学講座免疫病理分野)
3. カロリ病の肝内胆管拡張と肝線維化機序の解明とその制御；動物モデルpckラットを用いた検討：佐藤保則(金沢大学医薬保健学域医学系形態機能病理学)
4. がん微小環境内の血管内皮の異常性：樋田京子(北海道大学大学院歯学研究科口腔病態学講座 血管生物学教室)
5. 多段階発がん過程における抗腫瘍免疫機構に関する研究：平岡伸介(国立がんセンター研究所病理部)
6. ヒストン修飾蛋白によるがんの発生及び進展機構の解明：藤井誠志(国立がんセンター東病院臨床開発センター臨床病理部細胞動態室)
7. 動脈硬化症と非アルコール性脂肪性肝疾患発症病理との類似性；メタボリックシンドロームおよび血管病理の視点から：伊倉義弘(大阪市立大学大学院医学研究科病理病態学)

B演説(応募順)

1. 液腺原発Low-grade cribriform cystadenocarcinoma (LG-

- CCA) の病理組織学的特徴: 原田博史 (岩手医科大学歯学部病因病態制御学講座口腔病理学分野)
2. MRI を用いたオートプシーイメージング; 6 症例の検討: 山内稚佐子 (国立がんセンター東病院臨床開発センター臨床腫瘍病理部) 山崎 学, 藤井誠志, 石井源一郎, 小嶋基寛, 桑田 健, 落合淳志
3. 新カルチノイド症候群の提唱とその民族的背景: 本山悌一 (山形大学医学部人体病理学教室)
4. 胆道領域癌進展様式の臨床病理学的意義に関する検討: 尾島英知 (国立がんセンター研究所病理部)

2850	木村 勇人	2860	岩崎 沙理
2851	立石 陽子	2861	林 大久生
2852	黒澤 学	2862	原田 大輔
2853	大出 貴士	2863	米山亜紀子
2854	久保 勇記	2864	浅野 功治
2855	伊藤 敬	2865	市川 一仁
2856	井村 徹也	2866	菅野 雅人
2857	林 洋子	2867	東保 太郎
2858	山本陽一朗	2868	山口 浩
2859	廣岡 信一	2869	大竹 浩也

◇平成 22 年細胞診講習会: 伊藤智雄 (神戸大学) 世話人のもとで, 平成 22 年 3 月 13 日 (土) ~ 14 日 (日), 神戸大学にて実施され, 80 名が受講した。講師は, 伊藤智雄 (神戸大学), 南口早智子 (京都医療センター), 廣川満良 (隈病院), 大林千穂 (兵庫県立がんセンター), 河原邦光 (大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター), 星田義彦 (住友病院), 田代 敬 (兵庫県立加古川病院), 小林省二 (姫路中央病院), の 8 名であった。

◇第 28 回病理専門医試験について: 平成 22 年度の病理専門医試験は, 平成 22 年 7 月 24 日 (土), 7 月 25 日 (日) に京都府立医科大学にて実施された。81 名が受験して, 62 名が合格した (合格率 76.5%)。合格者氏名ならびに病理専門医登録番号は, 以下のとおりである (登録年月日: 平成 22 年 7 月 28 日)。

平成 22 年度病理専門医合格者氏名

認定番号	姓 名		
2808	富士井孝彦	2829	村上あゆみ
2809	内田 温	2830	松田 育雄
2810	山下 享子	2831	黒田 陽子
2811	平田 公一	2832	渡辺 紀子
2812	中村 保宏	2833	永田 千草
2813	山本 宗平	2834	喜舎場由香
2814	眞杉 洋平	2835	杉山 孝弘
2815	義岡 孝子	2836	遠藤太嘉志
2816	孝橋 賢一	2837	野呂瀬朋子
2817	徳山 宣	2838	内野かおり
2818	小山内 誠	2839	高野 将人
2819	田中 秀央	2840	小島 史好
2820	甲斐 敬太	2841	神農 陽子
2821	齋藤 剛	2842	古賀 佳織
2822	藤本 正数	2843	中尾 龍太
2823	内木 綾	2844	新谷裕加子
2824	竹下 篤	2845	大西 紘二
2825	高畑 浩之	2846	廣井 敦子
2826	浅野 奈美	2847	吉田 正行
2827	増田 正憲	2848	草野 弘宣
2828	種田 積子	2849	岡崎 泰昌

◇第 18 回口腔病理専門医試験について: 平成 22 年度の口腔病理専門医試験は, 第 28 回病理専門医試験と同日, 同会場で行われた。7 名が受験して 6 名が合格した (合格率 85.7%)。合格者氏名並びに口腔病理専門医登録番号は, 以下のとおりである (登録年月日: 平成 22 年 7 月 28 日)。

平成 22 年度口腔病理専門医合格者氏名

口腔認定番号	姓 名		
144	笹平 智則	147	河合 繁夫
145	江原 道子	148	桐山 理美
146	山崎 学	149	鈴木 華子

◇病理専門医・口腔病理専門医の資格の更新について: 資格更新が認められた病理専門医・口腔病理専門医は, 以下のとおりである。

#### 1. 病理専門医資格更新者氏名

##### 第 2 回 認定 79 名

更新期間 平成 22 年 (2010 年) 4 月 1 日から 5 年間

認定番号	氏 名		
320	小林 省二	355	金子 博
321	重松 秀一	357	小西二三男
322	大舘 祐治	361	成松 英明
325	神山 隆一	365	高山昇二郎
326	桑原 紀之	373	森 浩志
327	早川 欽哉	374	斎藤 謙
329	中村 宣生	380	町並 陸生
330	杉原 甫	381	藤澤 泰憲
331	谷村 晃	382	笠島 武
335	山本 俊輔	384	杉山 喜彦
336	坂元 吾偉	391	田中 貞夫
337	水島 睦枝	397	斎藤 建
339	廣川 勝昱	400	村上 俊一
341	小出 紀	407	鳥潟 親雄
342	森松 稔	409	小池 盛雄
343	小川 勝洋	410	高橋 敦
352	中西 功夫	418	鈴木 慶二
354	長嶋 和郎	420	虎頭 廉

421	元井 信	478	市島 國雄	1462	清水誠一郎	1482	下釜 達朗
424	円山 英昭	479	林 弘太郎	1463	清水 健	1484	鈴宮 淳司
427	渡辺 英伸	486	日浅 義雄	1464	赤坂 喜清	1486	増田 昭博
428	渡辺 駿七郎	488	名倉 宏	1466	石井 恵子	1487	横瀬 智之
431	河合紀生子	489	秦 順一	1468	清水 禎彦	1488	三宅 敏彦
432	藤田 昌宏	492	並木 真生	1469	本田 一穂	1489	佐藤 孝
433	辻 浩一	494	津田 暢夫	1470	佐藤 郁郎	1490	藤本純一郎
435	眞柄 直郎	495	梶原 博毅	1471	丸山 博司	1491	堀江 靖
437	国島 睦意	497	岩政 輝男	1472	米原 修治	1492	伊東 正博
439	佐藤 利宏	499	高橋 潔	1473	野沢 佳弘	1493	角田 幸雄
442	須田 耕一	501	原 満	1474	神谷 増三	1495	山根 哲実
449	下川 邦泰	502	小林 庸次	1476	丸山理留敬	1496	清水 健
451	吉田 春彦	503	山際 裕史	1477	新井 富生	1499	伏木 信次
452	岡村 明治	504	豊田 博	1478	長坂 徹郎	1500	渋谷 和俊
453	松原 藤継	505	江崎 行芳	1480	安井 弥	1501	田中 文彦
455	花井 淳	509	若狭 治毅	1481	新野 史		
456	石原 得博	510	北川 知行				
457	松本 一仁	514	板橋 正幸				
460	下田 忠和	515	岩田 隆子				
462	岩田 康	516	杉崎 祐一				
471	丹下 剛	520	秋間 道夫				
475	社本 幹博						

## 第7回(第2回試験) 認定 24名

更新期間 平成22年(2010年)4月1日から5年間

認定番号	氏名		
1175	入江 宏	1196	埴岡 啓介
1176	酒田 昭彦	1197	北條 洋
1177	加藤 良平	1198	星 和栄
1178	藤林真理子	1200	大秋 美治
1179	九島 巳樹	1201	芹澤 博美
1180	中村 智次	1204	吉田 利通
1184	植田 初江	1205	溝口 良順
1186	菊地 文史	1206	脇本 譲二
1187	岡 輝明	1207	松能 久雄
1188	池田 洋	1208	斉藤 昌宏
1191	野田 雅俊	1209	川野 潔
1195	吉河 康二	1210	越川 卓

## 第12回(第7回試験) 認定 43名

更新期間 平成22年(2010年)4月1日から5年間

認定番号	氏名		
1446	長沼 廣	1453	渡辺 宏志
1448	茅野 秀一	1454	菊地 泰
1449	上野 浩	1455	廣田 誠一
1450	伏見 博彰	1459	細 正博
1451	五十嵐俊彦	1460	佐野 健司
1452	上出 利光	1461	新井 栄一

## 第17回(第12回試験) 認定 56名

更新期間 平成22年(2010年)4月1日から5年間

認定番号	氏名		
1752	久岡 正典	1781	山口 佳子
1753	石澤 貢	1782	佐々木 學
1754	黒岩 俊彦	1784	大村 光浩
1755	河野 眞司	1785	鴨志田敏郎
1756	中正 恵二	1786	片岡 寛章
1757	豊國 伸哉	1787	黒瀬 顕
1758	嵩 眞佐子	1788	樋上 賀一
1759	加島 健司	1789	山田 鉄也
1760	黒田 雅彦	1790	小坂 裕之
1761	中村 泰行	1791	矢島 幹久
1763	田島 康夫	1792	内藤 善哉
1764	高橋さつき	1793	松本 光司
1765	三代川齊之	1794	田中 道雄
1766	大河原 進	1795	竹田 雅司
1767	伊藤 真文	1796	前倉 俊治
1768	坂口 伸樹	1797	降幡 陸夫
1769	保坂 直樹	1798	木村 雅友
1770	野村 浩一	1799	内海 康文
1771	山口 岳彦	1800	宍倉 有里
1772	藤野 雅彦	1801	足立 史朗
1773	八反田洋一	1802	真崎 武
1774	仙崎 英人	1803	中村 哲也
1775	中山 宏文	1804	大澤 政彦
1776	木口 英子	1805	今井 幸弘
1777	森下由紀雄	1806	大慈弥悠子
1778	岸本 光夫	1807	楠美 嘉晃
1779	斎藤 敦子	1808	佐々木 毅
1780	金井 弥栄	1809	鈴木 康彦



## 第22回(第17回試験) 認定 63名

更新期間 平成22年(2010年)4月1日から5年間

認定番号	氏名	認定番号	氏名
2091	黒田 直人	2126	仲里 巖
2092	村田建一郎	2128	上田 佳世
2093	大井 恭代	2129	三浦 康宏
2094	金網友木子	2130	田口 順
2095	田村 智美	2131	森山佐知子
2096	本田 由美	2132	嶋田 俊秀
2097	齊藤 啓	2133	中西 護
2098	伊藤 浩史	2137	重西 邦浩
2099	羽場 礼次	2138	赤松 裕子
2100	今井 康雄	2139	緒方 衝
2101	大谷 紀子	2140	蒲池 綾子
2102	塚本 哲	2141	竿尾 光祐
2103	渡辺 純	2142	岩佐 葉子
2104	笹島ゆう子	2143	藤井 博昭
2105	海崎 泰治	2144	今井 裕
2106	安達 章子	2145	服部日出雄
2107	田中 伸哉	2146	黒田 一
2108	酒々井夏子	2148	柳井 広之
2109	小西 康宏	2149	高場 恵美
2111	小田 義直	2150	平林 寧子
2112	井上 輝彦	2151	高川 清
2113	遠藤 泰志	2152	田宮 貞史
2115	今井 美和	2153	狩野 華子
2117	森谷 鈴子	2155	上杉 憲子
2118	鈴木 宏明	2156	伊東 恭子
2119	北山 康彦	2157	松浦 恵子
2120	常山 幸一	2158	鳥井 郁子
2121	廣瀬 茂道	2160	加藤 圭
2122	宇月 美和	2161	山崎 滋孝
2123	古田 朋子	2162	外丸 詩野
2124	酒井 剛	2163	片柳 和義
2125	南口早智子		

## 第27回(第22回試験) 認定 59名

更新期間 平成22年(2010年)4月1日から5年間

認定番号	氏名	認定番号	氏名
2447	古賀 孝臣	2457	林 紀乃
2448	安岡 弘直	2458	岡田 勝治
2449	小谷 泰一	2459	塩沢 英輔
2450	高桑 康成	2460	藤野 節
2452	大城 久	2461	近藤 武史
2453	蕨 雅大	2462	堀口 英久
2454	吉田 功	2463	片山 雅貴
2455	鈴木 周五	2464	下山 芳江
2456	櫻田 潤子	2465	内山 明央

2466	泉 浩	2488	松城 尚憲
2467	原 重雄	2489	北村 博司
2468	吉田 康之	2490	木下英理子
2469	内田 智久	2491	相田 久美
2470	久野 壽也	2492	小塚 祐司
2471	榊原 綾子	2493	橋 充弘
2472	近藤 哲夫	2494	高桑 徹也
2473	桃崎 征也	2495	相島 慎一
2474	恩田 宗彦	2496	長田 宏巳
2475	丹羽 秀樹	2497	関戸 康友
2476	小林 大輔	2498	河内 洋
2477	遠藤 秀子	2499	小林 計太
2478	山元 英崇	2500	安川 覚
2479	倉林 睦	2501	松本 晃一
2480	熊木 伸枝	2502	鈴木 昭
2481	辻端亜紀彦	2503	小峯 多雅
2482	岡 一雅	2504	大西 隆仁
2483	卜部 省悟	2505	中澤 匡男
2485	中守 真理	2506	本庄 原
2486	小原 一葉	2507	石澤 圭介
2487	金城 貴夫		

## 第1回 認定 3名

更新期間 平成22年(2010年)4月1日から4年間

認定番号	氏名	認定番号	氏名
62	橋本 紀三	289	三方 一澤
92	川生 明		

## 第4回 認定 1名

更新期間 平成22年(2010年)4月1日から2年間

認定番号	氏名
932	足達 敏博

## 第15回(第10回試験) 認定 1名

更新期間 平成22年(2010年)4月1日から3年間

認定番号	氏名
1661	小松 悌介

## 第16回(第11回試験) 認定 2名

更新期間 平成22年(2010年)4月1日から4年間

認定番号	氏名	認定番号	氏名
1686	船津 仁之	1709	松熊 晋

## 第26回(第21回試験) 認定 2名

更新期間 平成22年(2010年)4月1日から4年間

認定番号	氏名	認定番号	氏名
2389	成瀬 桂史	2429	清水 重喜

## 2. 口腔病理専門医資格更新者氏名

## 第2回 認定 12名

更新期間 平成22年(2010年)4月1日から5年間

認定番号	氏名	認定番号	氏名
25	武田 泰典	36	田島 義文
27	山本 浩嗣	40	賀来 亨
29	井上 孝	42	小宮山一雄
30	下野 正基	43	田中 陽一
31	山田 勉	44	坂井 英隆
35	岡田 憲彦	45	高田 隆

## 第7回(第2回試験) 認定 2名

更新期間 平成22年(2010年)4月1日から5年間

認定番号	氏名	認定番号	氏名
82	松尾 拡	83	窪田 展久

## 第12回(第7回試験) 認定 4名

更新期間 平成22年(2010年)4月1日から5年間

認定番号	氏名	認定番号	氏名
102	宇都宮忠彦	104	清島 保
103	豊澤 悟	105	原田 博史

## 第17回(第12回試験) 認定 5名

更新期間 平成22年(2010年)4月1日から5年間

認定番号	氏名	認定番号	氏名
122	君 賢司	125	長塚 仁
123	長谷川直樹	126	柳下 寿郎
124	田沼 順一		

◇平成21年度認定病院・登録施設(第32回)の審査について: 認定施設, 登録施設としての新規の申請は, 11件, 19件であった。審査の結果, すべてが承認された。認定(登録)期間は, 平成21年4月1日から平成23年3月31日までである。

## (1) 認定施設

認定番号	病院名
3023	独立行政法人国立病院機構相模原病院
3095	独立行政法人労働者健康福祉機構千葉労災病院
3139	社団法人地域医療振興協会横須賀市立うわまち病院
4087	土岐市立総合病院
4088	恩賜財団済生会松阪総合病院
5061	神戸協同病院
5085	独立行政法人国立病院機構刀根山病院
5086	西宮市立中央病院
6038	鳥取市立病院
7041	日本赤十字社長崎原爆病院
7042	社会医療法人敬愛会中頭病院

## (2) 登録施設

登録番号	病院名
1024	留萌市立病院
2031	独立行政法人国立病院機構弘前病院
3118	群馬県立心臓血管センター
3119	国家公務員共済組合連合会横浜栄共済病院
3120	社団法人山梨勤労者医療協会甲府共立病院
4043	富山県厚生農業協同組合連合会高岡病院
4115	岐阜赤十字病院
5014	近江八幡市立総合医療センター
5091	綾部市立病院
5092	大阪府済生会野江病院
5093	市立池田病院
5094	市立芦屋病院
6059	さぬき市民病院
6060	香川県厚生農業協同組合連合会屋島総合病院
7069	国家公務員共済組合連合会浜の町病院
7070	宗像医師会病院
7071	社会医療法人大成会 福岡記念病院
7072	大分県済生会日田病院
7073	佐賀県立病院好生館

◇平成22年度認定病院・登録施設の更新について: 認定病院・登録施設としての更新申請は, 審査の結果, それぞれ294施設および114施設の更新が認められた。認定(登録)期間は, 平成22年4月1日から平成24年3月31日までである。

## 平成22年度病理専門医研修施設(認定施設)更新機関

(第1, 3, 5, 7, 9, 11, 13, 15, 17, 19, 21, 23, 25, 27, 29, 31 294施設)

期間2年間 平成22年4月1日~平成24年3月31日

## 第1回 認可(29施設)

認定番号	施設名
1001	市立札幌病院
2001	青森県立中央病院
2002	岩手県立中央病院
2003	独立行政法人国立病院機構仙台医療センター
3004	千葉県がんセンター
3005	国立がん研究センター中央病院
3006	東京厚生年金病院
3007	国立国際医療センター戸山病院
3008	NTT 東日本関東病院
3009	東京都健康長寿医療センター
3010	独立行政法人国立病院機構東京医療センター
3012	聖路加国際病院
3014	同愛記念病院
3015	武蔵野赤十字病院
3016	川崎市立川崎病院

3017	横浜市立市民病院
3018	神奈川県立がんセンター
4001	新潟県立がんセンター新潟病院
4002	静岡済生会総合病院
4004	独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター
5002	京都第一赤十字病院
5003	大阪赤十字病院
5005	財団法人天理よろづ相談所病院
5006	神戸市医療センター中央市民病院
6001	(財)倉敷中央病院
6002	岡山済生会総合病院
6003	独立行政法人国立病院機構岡山医療センター
6004	県立広島病院
6006	広島市立広島市民病院

## 第3回 認可 (7施設)

認定番号	施設名
1003	市立旭川病院
1004	社団法人北海道勤労者医療協会勤医協中央病院
3026	神奈川県立子ども医療センター
6011	国家公務員共済組合連合会呉共済病院
7004	独立行政法人国立病院機構長崎医療センター
7005	大分県立病院
7006	沖縄県立中部病院

## 第5回 認可 (11施設)

認定番号	施設名
1005	市立函館病院
3032	東京都立駒込病院
4011	静岡県立こども病院
4012	静岡市立静岡病院
4014	三重県厚生農業協同組合連合会松阪中央総合病院
5008	京都市立病院
5011	独立行政法人国立病院機構大阪医療センター
5014	大津赤十字病院
5015	大阪厚生年金病院
5016	国立循環器病センター病院
6013	総合病院岡山赤十字病院

## 第7回 認可 (7施設)

認定番号	施設名
2008	社会医療法人明和会中通総合病院
3011	東京通信病院
3041	社会福祉法人三井記念病院
3043	東京都立広尾病院
5018	パナソニック健康保険組合松下記念病院
6015	独立行政法人国立病院機構呉医療センター・中国がんセンター
6016	愛媛県立中央病院

## 第9回 認可 (4施設)

認定番号	施設名
2010	(財)太田総合病院附属太田西ノ内病院
4021	名古屋掖済会病院
4022	岐阜市民病院
5023	兵庫県立がんセンター

## 第11回 認可 (7施設)

認定番号	施設名
2011	八戸市立市民病院
3056	社会保険中央総合病院
3058	独立行政法人労働者健康福祉機構関東労災病院
4028	岡崎市民病院
5028	医療法人同仁会耳原総合病院
5029	独立行政法人国立病院機構大阪南医療センター
5030	社団法人京都保健会京都民医連中央病院

## 第13回 認可 (7施設)

認定番号	施設名
2014	いわき市立総合磐城共立病院
3065	栃木県立がんセンター
3066	足利赤十字病院
3067	前橋赤十字病院
3068	医療法人鉄蕉会亀田総合病院
4031	愛知県厚生農業協同組合連合会安城更生病院
5031	大阪警察病院

## 第15回 認可 (8施設)

認定番号	施設名
3024	自衛隊中央病院
3074	千葉県こども病院
3075	財団法人東京都保健医療公社多摩北部医療センター
4037	石川県立中央病院
5034	星ヶ丘厚生年金病院
5035	社会医療法人愛仁会高槻病院
7015	社会保険小倉記念病院
7016	飯塚病院

## 第17回 認可 (2施設)

認定番号	施設名
4040	新潟県立中央病院
5038	京都第二赤十字病院

## 第19回 認可 (7施設)

認定番号	施設名
3038	独立行政法人国立国際医療研究センター国府台病院
3055	国家公務員共済組合連合会総合病院横須賀共済病院
3083	川口市立医療センター



3084 船橋市立医療センター  
 4013 岐阜県総合医療センター  
 4046 トヨタ記念病院  
 5042 (財)神戸市地域医療振興財団西神戸医療センター

#### 第21回 認可(9施設)

認定番号	施設名
2018	由利組合総合病院
2019	山形県・酒田市病院機構日本海総合病院
2020	鶴岡市立荘内病院
3087	総合病院取手協同病院
3088	成田赤十字病院
3089	東京医療生活協同組合中野総合病院
5004	地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪府立成人病センター
5045	医療法人徳洲会岸和田徳洲会病院
5046	独立行政法人国立病院機構南和歌山医療センター

#### 第23回 認可(19施設)

認定番号	施設名
2028	財団法人星総合病院
3031	国保松戸市立病院
3042	(財)東京都保健医療公社豊島病院
3101	国保直営総合病院君津中央病院
3102	医療法人財団東京勤労者医療会東葛病院
3103	医療法人沖縄徳洲会湘南鎌倉総合病院
4056	市立砺波総合病院
4057	社会医療法人財団慈泉会相澤病院
5052	市立長浜病院
5053	大津市民病院
5056	地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター
5057	市立堺病院
5058	市立泉佐野病院
5059	箕面市立病院
5060	公立学校共済組合近畿中央病院
5062	財団法人甲南病院
6029	香川医療生活協同組合高松平和病院
7023	長崎市立市民病院
7024	宮崎県立延岡病院

#### 第25回 認可(22施設)

認定番号	施設名
1015	市立室蘭総合病院
1016	北海道社会保険病院
1017	NTT 東日本札幌病院
1018	札幌社会保険総合病院
1019	JA 北海道厚生連札幌厚生病院
1021	独立行政法人労働者健康福祉機構釧路労災病院

1022	医療法人社団新日鐵室蘭総合病院
2030	秋田県厚生連平鹿総合病院
3108	上都賀総合病院
3109	独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター
3110	独立行政法人国立成育医療研究センター
4038	長野県厚生農業協同組合連合会北信総合病院
4052	焼津市立総合病院
4061	長野県厚生農業協同組合連合会篠ノ井総合病院
4063	福井県立病院
4064	富士宮市立病院
4065	県西部浜松医療センター
5027	(財)田附興風会医学研究所北野病院
6030	鳥取県立中央病院
6031	住友別子病院
7028	社会福祉法人恩賜財団済生会支部福岡県済生会福岡総合病院
7031	那覇市立病院

#### 第27回 認可(16施設)

認定番号	施設名
1025	社会福祉法人函館厚生院函館中央病院
2035	財団法人脳神経疾患研究所附属総合南東北病院
3120	春日部市立病院
3121	独立行政法人国立病院機構東京病院
3122	独立行政法人国立病院機構横浜医療センター
4069	掛川市立総合病院
4070	静岡県立静岡がんセンター
4071	春日井市民病院
5001	独立行政法人国立病院機構京都医療センター
5075	社会医療法人愛仁会千船病院
5076	関西電力病院
5077	大阪府済生会中津病院
5078	医療法人明和病院
7034	医療法人北九州病院北九州総合病院
7035	独立行政法人労働者健康福祉機構九州労災病院
7036	社会福祉法人恩賜財団済生会熊本病院

#### 第29回 認可(122施設)

認定番号	施設名
1026	市立釧路総合病院
1901	旭川医科大学病院
1902	北海道大学病院
1903	札幌医科大学附属病院
2037	財団法人大原総合病院
2901	弘前大学医学部附属病院
2902	秋田大学医学部附属病院
2903	岩手医科大学附属病院
2904	東北大学病院
2905	山形大学医学部附属病院

2906	福島県立医科大学附属病院	3947	北里大学東病院
3090	大和市立病院	3948	帝京大学医学部附属溝口病院
3132	国際医療福祉大学三田病院	3949	昭和大学横浜市北部病院
3901	自治医科大学附属病院	4058	公立学校共済組合東海中央病院
3902	獨協医科大学病院	4079	医療法人立川メディカルセンター立川総合病院
3903	群馬大学医学部附属病院	4080	総合病院南生協病院
3904	筑波大学附属病院	4089	国際医療福祉大学熱海病院
3905	埼玉医科大学病院	4901	浜松医科大学医学部附属病院
3906	防衛医科大学校病院	4902	新潟大学医歯学総合病院
3907	千葉大学医学部附属病院	4903	山梨大学医学部附属病院
3908	順天堂大学医学部附属順天堂医院	4904	信州大学医学部附属病院
3909	慶応義塾大学病院	4905	富山大学附属病院
3910	日本大学医学部附属板橋病院	4906	金沢大学附属病院
3911	日本医科大学付属病院	4907	金沢医科大学病院
3912	東京医科大学病院	4908	福井大学医学部附属病院
3913	東京慈恵会医科大学附属病院	4909	名古屋大学医学部附属病院
3914	東京女子医科大学病院	4910	名古屋市立大学病院
3915	東邦大学医療センター大森病院	4911	愛知医科大学病院
3916	昭和大学病院	4912	藤田保健衛生大学病院
3917	東京医科歯科大学医学部附属病院	4913	岐阜大学医学部附属病院
3918	東京大学医学部附属病院	4914	三重大学医学部附属病院
3919	杏林大学医学部附属病院	4917	順天堂大学医学部附属静岡病院
3920	帝京大学医学部附属病院	5026	淀川キリスト教病院
3921	聖マリアンナ医科大学病院	5901	京都大学医学部附属病院
3922	北里大学病院	5902	京都府立医科大学附属病院
3923	東海大学医学部附属病院	5903	関西医科大学附属滝井病院
3924	公立大学法人横浜市立大学附属病院	5904	大阪医科大学附属病院
3925	東京医科大学茨城医療センター	5905	大阪市立大学医学部附属病院
3926	獨協医科大学越谷病院	5906	大阪大学医学部附属病院
3927	埼玉医科大学総合医療センター	5907	近畿大学医学部附属病院
3928	自治医科大学附属さいたま医療センター	5908	和歌山県立医科大学附属病院
3929	帝京大学ちば総合医療センター	5909	兵庫医科大学病院
3930	順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院	5910	神戸大学医学部附属病院
3931	東京慈恵会医科大学附属柏病院	5912	近畿大学医学部奈良病院
3932	東邦大学医療センター佐倉病院	5913	奈良県立医科大学附属病院
3934	駿河台日本大学病院	5914	滋賀医科大学医学部附属病院
3935	東京慈恵会医科大学附属第三病院	6009	独立行政法人国立病院機構四国がんセンター
3936	東邦大学医療センター大橋病院	6042	福山市民病院
3937	東京慈恵会医科大学附属青戸病院	6043	広島県厚生農業共同組合連合会尾道総合病院
3938	東京女子医科大学東医療センター	6901	徳島大学医学部・歯学部附属病院
3939	日本医科大学多摩永山病院	6902	香川大学医学部附属病院
3940	日本大学医学部附属練馬光が丘病院	6903	高知大学医学部附属病院
3941	東京医科大学八王子医療センター	6904	愛媛大学医学部附属病院
3942	順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター	6905	岡山大学病院
3943	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院	6906	川崎医科大学附属病院
3944	昭和大学藤が丘病院	6907	広島大学病院
3945	横浜市立大学附属市民総合医療センター	6908	鳥取大学医学部附属病院
3946	日本医科大学武蔵小杉病院	6909	島根大学医学部附属病院

6910	山口大学医学部附属病院	3026	平塚市民病院
6911	川崎医科大学附属川崎病院	4008	名鉄病院
7038	独立行政法人国立病院機構九州医療センター	4019	市立伊勢総合病院
7039	医療法人天神会新古賀病院	7007	独立行政法人国立病院機構別府医療センター
7901	産業医科大学病院		
7902	久留米大学病院	<b>第3回</b>	認可(1施設)
7903	九州大学病院	登録番号	施設名
7904	福岡大学病院	5022	兵庫県立柏原病院
7905	佐賀大学医学部附属病院		
7906	熊本大学医学部附属病院	<b>第5回</b>	認可(2施設)
7907	長崎大学病院	登録番号	施設名
7908	大分大学医学部附属病院	3035	国家公務員共済組合連合会九段坂病院
7909	宮崎大学医学部附属病院	5029	医療法人徳洲会八尾徳洲会総合病院
7910	鹿児島大学医学部・歯学部附属病院		
7911	琉球大学医学部附属病院	<b>第7回</b>	認可(2施設)
7912	福岡大学筑紫病院	登録番号	施設名
		3042	千葉県救急医療センター
		3043	JFE健康保険組合川鉄千葉病院
<b>第31回</b>	認可(17施設)		
認定番号	施設名	<b>第9回</b>	認可(3施設)
1014	砂川市立病院	登録番号	施設名
2031	公立置賜総合病院	4037	佐久市立国保浅間総合病院
3085	医療法人社団木下会千葉西総合病院	4039	国家公務員共済組合連合会名城病院
3134	医療法人社団圭春会小張総合病院	4040	総合病院中津川市民病院
3135	国家公務員共済組合連合会立川病院		
3136	青梅市立総合病院	<b>第11回</b>	認可(2施設)
3137	東京北社会保険病院	登録番号	施設名
3138	医療法人社団ジャパンメディカルアライアンス海老名総合病院	4045	みなと医療生活協同組合協立総合病院
3950	埼玉医科大学国際医療センター	7031	唐津赤十字病院
3951	順天堂大学医学部附属練馬病院		
4053	沼津市立病院	<b>第13回</b>	認可(2施設)
4084	市立四日市病院	登録番号	施設名
4085	愛知県厚生農業協同組合連合会豊田厚生病院	1006	独立行政法人国立病院機構道北病院
4086	医療法人宏潤会大同病院	4051	医療法人社団健和会健和会病院
6049	JR西日本広島鉄道病院		
6050	松江市立病院	<b>第15回</b>	認可(4施設)
6052	社会医療法人近森会近森病院	登録番号	施設名
		3070	(財)東京都保健医療公社東部地域病院
		4056	山田赤十字病院
		4057	松阪市民病院
		6020	岡山労災病院
<b>平成22年度病理専門医研修施設(登録施設)更新機関</b>		<b>第17回</b>	認可(3施設)
(第1, 3, 5, 7, 9, 11, 13, 15, 17, 19, 21, 23, 25, 27, 29, 31 114施設)		登録番号	施設名
期間2年間 平成21年4月1日～平成23年3月31日		3074	医療生協さいたま生活協同組合埼玉協同病院
<b>第1回</b>	認可(9施設)	4061	豊川市民病院
登録番号	施設名	5048	市立伊丹病院
2004	福島県立会津総合病院		
3001	社会福祉法人恩賜財団済生会支部栃木県済生会宇都宮病院		
3009	独立行政法人国立病院機構霞ヶ浦医療センター		
3013	東京都教職員互助会三楽病院		
3022	独立行政法人国立病院機構災害医療センター		



## 第19回 認可(6施設)

登録番号	施設名
4070	飯田市立病院
4071	大垣市民病院
4072	羽島市民病院
5050	社会保険京都病院
5051	加西市立加西病院
7041	今給黎総合病院

## 第21回 認可(6施設)

登録番号	施設名
1011	北海道中央労災病院せき損センター
1014	医療法人徳洲会札幌徳洲会病院
4075	西尾市民病院
5056	高槻赤十字病院
5059	兵庫県立こども病院
7043	医療法人親仁会米の山病院

## 第23回 認可(6施設)

登録番号	施設名
1019	医療法人王子総合病院
2018	岩手県立大船渡病院
3086	草加市立病院
4079	独立行政法人労働者健康福祉機構新潟労災病院
4080	一宮市立市民病院
7048	社会福祉法人恩賜財団済生会川内病院

## 第25回 認可(15施設)

登録番号	施設名
1013	医療法人母恋日鋼記念病院
2020	公立刈田総合病院
2021	宮城県立がんセンター
2022	仙台社会保険病院
2023	大崎市民病院
3094	(財)結核予防会複十字病院
3095	独立行政法人国立病院機構東埼玉病院
4085	長野市民病院
4086	長野県厚生農業協同組合連合会長野松代総合病院
5069	大阪府済生会富田林病院
5070	市立枚方市民病院
5071	明石市立市民病院
5072	赤穂市民病院
5073	独立行政法人国立病院機構姫路医療センター
6030	医療法人里仁会興生総合病院

## 第27回 認可(5施設)

登録番号	施設名
4093	岐阜県厚生農業協同組合連合会中濃厚生病院

5079	泉大津市立病院
6047	国家公務員共済組合連合会高松病院
6048	高知県立幡多けんみん病院
7051	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

## 第29回 認可(23施設)

登録番号	施設名
1029	医療法人彰和会北海道消化器科病院
1030	北海道社会事業協会小樽病院
2029	JA秋田厚生連秋田組合総合病院
3080	国立療養所多磨全生園
3111	(財)ライフ・エクステンション研究所附属永寿総合病院
3901	東京大学医学研究所附属病院
3902	東海大学医学部付属東京病院
3903	東海大学医学部付属八王子病院
3904	東海大学医学部付属大磯病院
4091	金沢市立病院
4096	公立松任石川中央病院
4097	南砺市民病院
4901	藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院
5081	大阪府済生会茨木病院
5082	兵庫県立加古川医療センター
5901	関西医科大学附属枚方病院
6015	徳島市民病院
6034	独立行政法人労働者健康福祉機構山陰労災病院
6051	山口県済生会下関総合病院
6052	社会保険下関厚生病院
7056	医療法人社団高邦会高木病院
7057	済生会長崎病院
7058	長崎県立島原病院

## 第31回 認可(25施設)

登録番号	施設名
2030	青森労災病院
3114	大田原赤十字病院
3115	医療法人社団日高会日高病院
3116	町田市民病院
3117	済生会横浜市東部病院
4112	NHO まつもと医療センター中信松本病院
4113	長野中央病院
4114	福井赤十字病院
5086	京都桂病院
5087	医療法人生長会府中病院
5088	大阪鉄道病院
5089	姫路聖マリア病院
5090	医療法人公仁会姫路中央病院
6055	鳥取赤十字病院
6056	独立行政法人国立病院機構関門医療センター

- 6057 総合病院坂出市立病院
- 6058 社会医療法人財団大樹会総合病院回生病院
- 7061 福岡県済生会二日市病院
- 7062 独立行政法人国立病院機構嬉野医療センター
- 7063 独立行政法人国立病院機構熊本再春荘病院
- 7064 NTT西日本九州病院
- 7065 独立行政法人国立病院機構鹿児島医療センター
- 7066 財団法人慈愛会今村病院分院
- 7067 独立行政法人国立病院機構沖縄病院
- 7068 医療法人白十字会白十字病院

◇平成21年度事業報告について：第99回（平成22年度）総会における会員総会で承認された社団法人日本病理学会平成21年度事業報告（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）は、以下のとおりである。

#### I. 学術集会、研究会等の開催

##### 1. 学術集会の開催

- (1) 「第98回日本病理学会総会」（於京都・真鍋俊明会長）を開催
- (2) 「第55回日本病理学会秋期特別総会」（於東京・松原修会長）を開催

##### 2. 研究会、講習会等の開催

- (1) 第6回日本病理学会カンファレンス（2009つくば7月31日・8月1日）を実施
- (2) 細胞診講習会（於東京都 3月13日・14日）を実施
- (3) 病理診断講習会（於京都市 5月2日・3日）を実施
- (4) 病理技術講習会（於東京都 11月18日）を実施
- (5) 第3回診断病理サマーフェスト（於東京都 8月29日・30日）を実施
- (6) 各支部における「学術・研究集会」等を実施

##### 3. 公開講座・シンポジウムの開催

#### II. 学会誌、学術図書等の発行

- 1. 「日本病理学会会誌」の発行（第98巻第1～2号）を発行
- 2. 「Pathology International」の発行（Vol. 59 4～12, Vol. 60 1～3）を発行
- 3. 「診断病理」の発行（第26巻第2～4号, 第27巻第1号）を発行
- 4. 「日本病理学会会報」の発行（第255～266号）を発行
- 5. 「病理専門医部会報」の発行（2009年 第2～4号, 2010年 第1号）を発行

#### III. 研究および調査

- 1. 「日本病理剖検輯報」第50輯（平成19年症例）を発行
- 2. 剖検輯報編集方法の変更・充実
- 3. 剖検記録データベースの再構築

#### IV. 病理専門医等の資格認定

- 1. 病理専門医・口腔病理専門医の認定・試験（於京都市）の実施及び資格の更新

- 2. 病理専門医の広告
- 3. 「病理専門医研修手帳」の実施
- 4. 病理専門医研修施設の認定および資格の更新

#### V. 学術団体との協力、連絡

- 1. 学術団体等との会議共催および後援（国内）を多数実施
- 2. 腫瘍取扱い規約等の改訂
- 3. 海外病理学会との交流
  - (1) 英国病理学会との会員の相互派遣、学術交流を実施
  - (2) アジア諸国との学術交流を実施

#### VI. その他目的を達成するために必要な事業

- 1. 日本病理学賞（宿題報告）を3名に授与
- 2. 日本病理学会学術奨励賞を7名に授与
- 3. 日本病理学会学術研究賞（A演説）を7名に授与
- 4. 病理学卒前教育の充実
- 5. 病理診断コンサルテーションシステムの充実
- 6. インターネットホームページの充実
- 7. 医師賠償責任保険加入取扱いを実施
- 8. 病理専門医制度運営、医療業務、学術・研究等の各種委員会を開催

◇平成21年度収支決算報告について：第99回（平成22年度）総会における会員総会で承認された社団法人日本病理学会平成21年度収支決算報告は、以下のとおりである。

##### 1) 収支計算書

平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

(単位 円)

科目	予算額	決算額	差異
<b>I. 収入の部</b>			
<b>1. 基本財産運用収入</b>	50,000	12,019	△37,981
受取利息収入	50,000	12,019	△37,981
<b>2. 会費収入</b>	71,510,000	74,692,000	3,182,000
正会員・学術評議員会費	29,000,000	29,212,000	212,000
同終身会費	3,000,000	3,600,000	600,000
同一般会員会費	27,000,000	29,323,000	2,323,000
学生会員会費	10,000	0	△10,000
賛助会員会費	150,000	150,000	0
機関会員会費	350,000	335,000	△15,000
病理専門医部会員会費	12,000,000	12,072,000	72,000
<b>3. 事業収入</b>	122,700,000	135,440,483	12,740,483
学術集会収入	80,000,000	94,330,511	14,330,511
論文掲載料収入	900,000	1,160,828	260,828
広告料収入	800,000	936,600	136,600
刊行物発行収入	14,000,000	12,718,500	△1,281,500
専門医制度収入	16,000,000	15,942,000	△58,000
病理専門医部会収入	4,000,000	3,405,513	△594,487
講習会等収入	4,500,000	4,421,000	△79,000
賠償責任保険事務費収入	2,500,000	2,525,531	25,531

4. 寄付金収入	0	3,680,000	3,680,000
100周年記念事業寄付金収入	0	3,680,000	3,680,000
5. 繰入金収入	2,700,000	23,180,000	20,480,000
学術医療基金繰入金収入	2,700,000	3,180,000	480,000
100周年記念事業引当預金繰入金収入	0	20,000,000	20,000,000
6. 雑収入	3,400,000	4,732,353	1,332,353
受取利息収入	400,000	110,923	△ 289,077
雑収入	3,000,000	4,621,430	1,621,430
当期収入合計 (A)	200,360,000	241,736,855	41,376,855
前期繰越収支差額	44,851,000	62,864,620	18,013,620
収入合計 (B)	245,211,000	304,601,475	59,390,475

(単位 円)

科 目	予算額	決算額	差 異
II. 支出の部			
1. 事業支出	161,000,000	175,947,579	14,947,579
学術集会経費	84,500,000	93,061,189	8,561,189
学会誌発行経費	29,000,000	27,317,770	△ 1,682,230
会報発行経費	2,500,000	2,948,400	448,400
剖検報刊行経費	10,500,000	10,921,737	421,737
専門医制度運営経費	9,000,000	10,008,963	1,008,963
病理専門医部会経費	8,000,000	8,429,997	429,997
支部運営経費	6,500,000	6,500,000	0
学術奨励等経費	4,500,000	3,174,705	△ 1,325,295
講習会等経費	3,500,000	3,406,101	△ 93,899
各種委員会経費	3,000,000	4,350,703	1,350,703
事業人件費	0	5,828,014	5,828,014
2. 管理費	33,130,000	32,727,711	△ 402,289
人件費	15,000,000	8,464,998	△ 6,535,002
福利厚生費	2,000,000	2,145,720	145,720
交通費	300,000	270,000	△ 30,000
通信運搬費	3,000,000	2,776,736	△ 223,264
会議費	1,500,000	1,658,312	158,312
印刷費	2,500,000	1,963,105	△ 536,895
備品費	200,000	0	△ 200,000
消耗品費	500,000	255,483	△ 244,517
光熱費	230,000	241,254	11,254
賃借料	2,700,000	3,958,243	1,258,243
諸会費	900,000	900,000	0
補助金	200,000	0	△ 200,000
修繕費	100,000	0	△ 100,000
嘱託料	2,000,000	2,458,500	458,500
租税公課 (消費税等)	1,500,000	1,088,500	△ 411,500
(法人税等)	0	5,947,017	5,947,017
雑費	500,000	599,843	99,843
3. その他	4,600,000	25,245,864	20,645,864
退職給与引当預金支出	1,600,000	1,600,000	0

学術医療基金引当預金繰入支出他	3,000,000	23,645,864	20,645,864
4. 予備費	1,000,000	0	△ 1,000,000
当期支出合計 (C)	199,730,000	233,921,154	34,191,154
当期収支差額 (A - C)	630,000	7,815,701	7,185,701
次期繰越収支差額 (B - C)	45,481,000	70,680,321	25,199,321

## 2) 貸借対照表

平成 22 年 3 月 31 日現在

(単位 円)

科 目	金 額		
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金・預金	158,436,987		
前払金	423,654		
未収金	518,970		
流動資産合計		159,379,611	
2. 固定資産			
基本財産	<u>30,000,000</u>		
その他の固定資産			
学術医療振興基金引当預金	98,990,518		
国際交流基金引当預金	20,133,830		
保証金	930,000		
退職給与引当預金	17,500,000		
什器備品	84,957		
その他の固定資産計	<u>137,639,305</u>		
固定資産合計		<u>167,639,305</u>	
資産合計			<u>327,018,916</u>
II. 負債の部			
1. 流動負債			
前受金	51,823,000		
未払金	14,971,166		
預り金	<u>1,905,124</u>		
流動負債合計		68,699,290	
2. 固定負債			
退職給与引当金	17,500,000		
固定負債合計		<u>17,500,000</u>	
負債合計			86,199,290
III. 正味財産の部			
正味財産			240,819,626
(うち基本金)			(30,000,000)
(うち正味財産当期増加額)			<u>(8,281,565)</u>
負債及び正味財産合計			<u>327,018,916</u>



## 3) 正味財産増減計算書

平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

(単位 円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益	12,019	49,694	△ 37,675
基本財産受取利息	12,019	49,694	△ 37,675
② 受取会費	74,692,000	69,363,000	5,329,000
学術評議員会費	29,212,000	27,030,000	2,182,000
一般会員等会費	33,408,000	30,621,000	2,787,000
病理専門医部会費	12,072,000	11,712,000	360,000
③ 事業収益	135,440,483	143,736,738	△ 8,296,255
学術集会収入	94,330,511	100,509,196	△ 6,178,685
論文掲載料収入	1,160,828	986,414	174,414
広告料収入	936,600	726,600	210,000
刊行物発行収入	16,124,013	17,801,053	△ 1,677,040
専門医制度収入	15,942,000	16,472,000	△ 530,000
講習会等収入	4,421,000	4,752,000	△ 331,000
賠償保険事務費収入	2,525,531	2,489,475	36,056
④ 受取寄付金	3,680,000	0	3,680,000
寄付金収入	3,680,000	0	3,680,000
⑤ 雑収入	4,732,353	11,162,576	△ 6,430,223
受取利息	110,923	361,241	△ 250,318
著作権協会分配金	899,200		899,200
科学技術振興事業団	542,640	727,976	△ 185,336
Pathol Int ロイヤリティ	2,510,240	3,309,138	△ 798,898
医中雑刊著作権使用料	25,620		25,620
刊行物編集協力金	621,240		621,240
雑収入	22,490	6,764,221	△ 6,741,731
経常収益計	218,556,855	224,312,008	△ 5,755,153
(2) 経常費用			0
① 事業費			0
事業経費	175,947,579	184,404,767	△ 8,457,188
学術集会費	93,061,189	99,161,098	△ 6,099,909
学会誌発行費	27,317,770	30,640,588	△ 3,322,818
会報発行費	2,948,400	3,090,675	△ 142,275
剖検輯報発行費	10,921,737	11,008,914	△ 87,177
専門医制度運営費	10,008,963	9,370,081	638,882
病理専門医部会費	8,429,997	8,838,396	△ 408,399
支部運営費	6,500,000	5,850,000	650,000
学術奨励等費	3,174,705	2,880,391	294,314
講習会等経費	3,406,101	4,578,372	△ 1,172,271
各種委員会費	4,350,703	3,172,120	1,178,583
事業人件費	5,828,014	5,814,132	13,882
事業費計	175,947,579	184,404,767	△ 8,457,188
② 管理費			0
人件費	8,464,998	8,328,807	136,191
福利厚生費	2,145,720	2,078,514	67,206
交通費	270,000	275,000	△ 5,000
通信運搬費	2,776,736	2,722,620	54,116

会議費	1,658,312	1,261,629	396,683
印刷費	1,963,105	1,623,896	339,209
消耗品費	255,483	316,062	△ 60,579
光熱水道費	241,254	236,371	4,883
賃借料	3,958,243	2,523,728	1,434,515
諸会費	900,000	900,000	0
嘱託料	2,458,500	3,351,000	△ 892,500
租税公課	7,035,517	6,045,000	990,517
雑費	599,843	559,560	40,283
管理費計	32,727,711	30,222,187	2,505,524
経常費用計	208,675,290	214,626,954	△ 5,951,664
当期経常増減額	9,881,565	9,685,054	196,511
2 経常外増減の部			0
(1) 経常外収益			0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			0
経常外費用計	0	0	0
退職給与引当預金支出	1,600,000	1,600,000	0
税引前一般正味財産増減額	8,281,565	8,085,054	196,511
法人税、住民税及び事業税			0
当期一般正味財産増減額	8,281,565	8,085,054	196,511

## 4) 財産目録

平成22年3月31日現在

(単位 円)

科 目	金 額		
I. 資産の部			
1. 流動資産			
(1) 現金・預金			
現 金 現金手許有高	152,107		
普通預金 みずほ銀行本郷支店	132,434,778		
普通預金 三菱東京UFJ銀行本郷支店	140,622		
定期預金 みずほ銀行本郷支店	131,945		
郵便振替貯金	25,577,535		
現金・預金合計	158,436,987		
(2) 前払金			
家賃	195,300		
会費自動振替手数料	228,354		
前払金合計	423,654		
(3) 未収金			
学会誌発行収入等	518,970		
流動資産合計		159,379,611	
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
普通預金 三菱東京UFJ銀行本郷支店	30,000,000		
(2) その他の固定資産			
① 特別財産			
学術医療基金引当預金	98,990,518		
(普通 三菱東京UFJ銀行春日支店)			
国際交流基金引当預金	20,133,830		
(普通・りそな銀行本郷支店)			
② 保証金	930,000		

③ 退職給与引当預金	17,500,000		
④ 什器備品	84,957		
その他の固定資産合計	137,639,305		
固定資産合計		167,639,305	
資産合計			327,018,916

科 目	金 額		
II. 負債の部			
1. 流動負債			
(1) 前受金			
平成22年度会費・部会費等	51,823,000		
(2) 未払金			
英文誌印刷費等	2,785,000		
日病会誌印刷費等	5,511,599		
会報印刷費	95,550		
諸印刷費	67,200		
未払消費税等	400,000		
未払法人税等	5,611,817		
未払金合計	14,471,166		
(3) 預り金			
英文誌カラー印刷	1,745,000		
源泉所得税等	160,124		
預り金合計	1,905,124		
流動負債合計		68,199,290	
2. 固定負債			
(1) 退職給与引当金	17,500,000		
固定負債合計		17,500,000	
負債合計			85,699,290
正味財産			240,819,626

## ◆会員数（平成22年7月31日現在）：

正会員	3,751名
（学術評議員	1,519名）
（一般会員	2,232名）
名誉会員	328名
賛助会員	3名
機関会員	85名
計	4,167名

## ◆役員一覧（平成22年度）：

日本病理学会の役員は、以下のとおりである。

理事および監事（任期：平成24年3月31日まで）

理事長	青笹 克之
副理事長	向井 清
副理事長	寺田 信行
常任理事	上田真喜子
常任理事	佐藤 昇志
常任理事	深山 正久
理事	橋本 洋
理事	覚道 健一

理事	加藤 良平
理事	黒田 誠
理事	松原 修
理事	本山 悌一
理事	根本 則道
理事	岡田 保典
理事	笹野 公伸
理事	白石 泰三
理事	山口 朗
理事	安井 弥
理事	吉野 正
監事	真鍋 俊明
監事	佐野 壽昭

## ◆各種委員会委員名簿（平成年度22年4月現在）：

## 1. 企画委員会

向井 清（委員長）、深山正久、松原 修、本山悌一、岡田保典、笹野公伸、佐藤昇志、寺田信行、上田真喜子、福本 学、落合淳志

## 1-2. 公益法人WG

向井 清、内藤善哉、中村直哉、坂元亨宇、佐々木毅

## 1-3. 選挙制度改革WG

向井 清、深山正久、寺田信行、上田真喜子、福本 学、田口 尚

## 1-4. 100周年記念事業担当

深山正久

## 2. 広報委員会

岡田保典（委員長）、深山正久、黒田 誠、松原 修、向井 清、佐藤昇志、上田真喜子、山口 朗、安井 弥、藤井丈士、一宮慎吾、伊東恭子、宇崎崎宏

## 2-2. 市民公開講座検討委員会

吉野 正（委員長）、岡田保典、降幡睦夫、稲垣 宏、九嶋亮治、野々村昭孝、竹内賢吾、都築豊徳、横山繁生

## 3. 財務委員会

上田真喜子（委員長）、深山正久、松原 修、向井 清、岡田保典、佐藤昇志、寺田信行

## 4. 学術委員会

佐藤昇志（委員長）、深山正久、向井 清、岡田保典、笹野公伸、白石泰三、上田真喜子、山口 朗、安井 弥、高橋雅英、山本哲郎、張ヶ谷健一、金井弥栄、笠原正典、仲野 徹、当該年春期総会会長（岡田保典）、秋期特別総会会長（諸星利男）

## 4-2. 学術奨励賞選考委員会

松原 修（委員長）、加藤良平、岡田保典、寺田信行、安井 弥、吉野 正、佐藤昇志（学術委員長）、本山悌一（教育委員長）、深山正久（病理専門医制度運営委員長）

## 4-3. サマーフェスト委員会

松原 修（委員長）、深山正久、藤盛孝博、福嶋敬宜、久

岡正典, 平戸純子, 本間慶一, 真能正幸, 阪本晴彦, 柴原純二, 田丸淳一, (顧問: 真鍋俊明)

#### 4-4. 病理診断講習会委員会

向井 清 (委員長), 吉野 正, 長谷川匡, 廣瀬隆則, 片岡憲章, 三上芳喜, 仁木利郎, 坂元亨宇, 渋谷和俊, 鳥越俊彦

#### 4-5. 支部選出学術委員会

白石泰三 (委員長), 原 明, 松川昭博, 村田晋一, 竹屋元裕, 田村 元, 立野正敏, 螺良愛郎

#### 4-6. 学術アドバイザー

浅田祐士郎, 千葉英樹, 降幡陸夫, 林 良夫, 北川昌伸, 黒住昌史, 松田道行, 村垣泰光, 内藤 眞, 中島 孝, 中村卓郎, 中里洋一, 落合淳志, 小笠原一誠, 佐々木功典, 下川 功, 梶村春彦, 上出利光, (顧問: 廣橋説雄)

#### 5. 研究推進委員会

安井 弥 (委員長), 加藤良平, 佐藤昇志, 中村卓郎, 中山 淳, 池田栄二, 戸田修二

#### 6. 編集委員会

覚道健一 (委員長), 根本則道, 本山悌一, 向井 清, 岡田保典, 佐藤昇志, 上田真喜子, 安井 弥, 高橋雅英, 向井万起男

#### 6-2. Pathol Int 常任刊行委員会

高橋雅英 (委員長), 藤本純一郎, 福嶋敬宜, 廣瀬隆則, 石田 剛, 城 謙輔, 鬼島 宏, 森永正二郎, 本山悌一, 向井 清, 中谷行雄, 中里洋一, 野口雅之, 落合淳志, 小田義直, 岡田保典, 大島孝一, 小野栄夫, 坂元亨宇, 佐野壽昭, 佐多徹太郎, 清水道生, 滝澤登一郎, 堤 寛, 都築豊徳, 上田真喜子, 梅村しのぶ, 横山繁生, 吉野 正

#### 6-3. 剖検情報委員会

根本則道 (委員長), 藤原 恵, 楠美嘉晃, 高橋 学

#### 6-4. 「診断病理」編集委員会

向井万起男 (委員長), 布村眞季 (副), 安田政実 (副), 矢持淑子 (副), 長谷川匡, 鬼島宏, 内藤善哉, 伊藤浩史, 螺良愛郎, 松川昭博, 横山繁生 (以上支部編集委員)

#### 6-5. 癌取扱い規約委員会

向井万起男 (委員長), 伊藤以知郎, 清川貴子, 松野吉宏, 森井英一, 寺本典弘, 渡邊麗子

#### 7. 病理専門医制度運営委員会

深山正久 (委員長), 本山悌一, 黒田 誠, 根本則道, 野島孝之, 清水道生, 田村浩一, 江石義信, 川野 潔, 小西登, 村田哲也, 野口雅之, 向井万起男

#### 7-2. 病理専門医試験委員会

野島孝之 (委員長), 村田哲也, 中谷行雄, 大林千穂, 梅村しのぶ, 伊丹真紀子, 伊藤智雄, 津田 均

#### 7-3. 病理専門医資格審査委員会

黒田 誠 (委員長), 小西 登, 菅井 有, 林 一彦, 上田善彦, 山城勝重

#### 7-4. 病理専門医施設審査委員会

村田哲也 (委員長), 野島孝之, 伊藤浩史, 中村直哉, 小田義直, 谷田部恭

#### 7-5. 病理専門医部会報編集委員会

清水道生 (委員長), 堤 寛 (副), 望月 眞 (副), 佐藤昌明, 鬼島 宏, 上田善彦, 福岡順也, 大山秀樹, 藤原恵, 小田義直

#### 8. 医療業務委員会

根本則道 (委員長), 深山正久, 黒田 誠, 山口 朗, 廣川満良, 湊 宏, 大橋健一, 九島巳樹, 杉谷雅彦

#### 8-2. コンサルテーション委員会

森谷卓也 (委員長), 今村好章, 泉 美貴, 黒瀬 顕, 大島孝一, 八尾隆史

#### 8-3. 社会保険委員会

稲山嘉明 (委員長), 根本則道, 金城 満, 小西英一, 大倉康男, 佐々木毅, 島村和男, 若狭朋子, 渡邊一男, (顧問: 長村義之)

#### 8-4. 病理診断体制専門委員会

佐々木毅 (委員長), 黒田 誠, 根本則道, 相島慎一, 羽山忠良, 岩佐葉子, 岸川正大, 三代川斉之, 大城真理子, 谷山清己, 辻本正彦, 安田政実, (顧問: 原 正道, 水口國雄)

#### 8-5. 精度管理委員会

鬼島 宏 (委員長), 秋山 太, 羽場礼次, 林徳眞吉, 加藤哲子, 木佐貫篤, 笹島ゆう子, 和田 了, 柳澤昭夫

#### 8-6. 剖検・病理技術委員会

柳井広之 (委員長), 遠藤希之, 亀井敏昭, 河原邦光, 松岡健太郎, 長尾俊孝, 長坂徹郎, 庄盛浩平

#### 9. 口腔病理専門医制度運営委員会

山口 朗 (委員長), 黒田 誠, 出雲俊之, 豊澤 悟, 前田初彦, 原田博史, 仙波伊知郎, 田中陽一

#### 9-2. 口腔病理専門医試験委員会

出雲俊之 (委員長), 田中陽一, 豊澤 悟, 仙波伊知郎, 長塚 仁

#### 9-3. 口腔病理専門医資格審査委員会

仙波伊知郎 (委員長), 原田博史

#### 10. 教育委員会

本山悌一 (委員長), 白石泰三, 吉野 正, 長嶋洋治, 長沼 廣, 谷本昭英, 外丸詩野, 横崎 宏

#### 11. 国際交流委員会

笹野公伸 (委員長), 松原 修, 荒川 敦, 森谷鈴子, 鈴木 貴, 横井豊治, 米澤 傑

#### 12. 支部委員会

橋本 洋 (委員長), 佐藤昇志, 本山悌一, 加藤良平, 白石泰三, 寺田信行, 吉野 正

#### 13. 倫理委員会

井藤久雄 (委員長), 本山悌一, 伏木信次, 伊藤雅文, 武村民子, 田中伸哉, 吉見直己, 増井 徹 (外部委員), 中島みち (外部委員), 宇都木伸 (外部委員)

## 14. リスクマネジメント委員会

井内康輝（委員長）、佐々木功典、堤 寛、児玉安司（外部委員）

## 15. 死因究明委員会

黒田 誠（委員長）、藤田眞幸、江村 巖、池田 洋、森下由紀雄、居石克夫、高澤 豊

## 16. 人材育成委員会

橋本 洋（委員長）、味岡洋一、浅田祐士郎、羽賀博典、石川雄一、佐々木素子、佐々木なおみ、植村芳子、渡辺みか、加藤良平、豊國伸哉

## 16-2. 若手医師確保に関する委員会

豊國伸哉（委員長）、樋口佳代子、伊倉義弘、今井田克己、菅野祐幸、河野眞司、茅野秀一、西川祐司、定平吉都、鷹橋浩幸

## 16-3. 男女共同参画委員会

加藤良平（委員長）、絹川典子、久保田佳奈子、増田友之、南口早智子、鍋島一樹、小野謙三、武島幸男

支部相談員（○は男女共同参画委員会委員）

北海道支部 ○久保田佳奈子（北海道大学病院病理部）

青木 直子（旭川医科大学病理学講座）

一宮 慎吾（札幌医科大学医学部病理学第一講座）

東北支部 ○増田 友之（岩手医科大学医学部病理学講座）

阿保重紀子（岩手医科大学医学部病理学講座）

渡辺 みか（東北大学病院病理部）

関東支部 ○絹川 典子（日本大学医学部病理学教室）

元井 紀子（（財）癌研究会癌研究所病理部）

亀山 香織（慶應義塾大学医学部病理診断部）

中部支部 ○小野 謙三（公立陶生病院病理部）

佐々木素子（金沢大学大学院医学系研究科形態機能病理）

近畿支部 ○南口早智子（京都医療センター病理診断科）

坂井田紀子（関西医科大学附属枚方病院病理部）

加藤 元一（京都第一赤十字病院病理診断科）

中国四国支部 ○武島 幸男（広島大学大学院医歯薬総合研究科病理学）

金子 真弓（広島市立安佐市民病院病理部）

中村 聡子（香川県立中央病院検査部病理）

◇社団法人日本病理学会事務局：菊川敦子、大藪いづみ、岩井理央

・住所：〒113-0033 文京区本郷2-40-9

ニュー赤門ビル4階

・TEL：03-5684-6886

・FAX：03-5684-6936

・E-mail：jsp-admin@umin.ac.jp（事務局）

・E-mail：pin@blackwellpublishing.com（Pathology Int. 編集室）

・ホームページ：http://jsp.umin.ac.jp/

・郵便振替口座：口座番号 00130-4-32817

加入者名 社団法人日本病理学会